

公益社団法人日本地球惑星科学連合

平成 27 年度 第 2 回理事会

開催日時 平成 27 年 7 月 18 日（土）
 15 時 00 分から 18 時 00 分

開催場所 東京大学理学部 1 号館 7 階 710 号室
 （東京都文京区本郷 7-3-1）

平成 27 年度第 2 回理事会議事次第

1. 開 会

議事内容

2. 審 議 事 項

- 第 1 号議案 新入会員承認
- 第 2 号議案 委員会委員承認
- 第 3 号議案 大会参加登録費改訂の件
- 第 4 号議案 選挙管理委員会設置の件
- 第 5 号議案 調達規則改正の件
- 第 6 号議案 会計規則設置の件
- 第 7 号議案 男女共同委員会キャリア支援委員会統合の件
- 第 8 号議案 地震連絡学会継続加入の件
- 第 9 号議案 事務局職員（国際担当、広報/大会担当）雇用の件
- 第 10 号議案 教員免許更新事業の件
- 第 11 号議案 その他

3. 報 告 事 項

- 1. 津田代表理事職務報告
- 2. 川幡理事（ジャーナル担当）職務報告
- 3. 木村理事（グローバル戦略担当）職務報告
- 4. 中村理事（顕彰担当）職務報告
- 5. 成瀬理事（顕彰担当）職務報告
- 6. 古村理事（総務担当）職務報告
- 7. 北理事（財務担当）職務報告
- 8. 浜野理事（大会運営担当）職務報告
- 9. 村山理事（システム担当）職務報告
- 10. その他

4. 閉 会

(資 料)

審議事項

第 1 号議案	新入会員承認	P. 1-5
第 2 号議案	委員会委員承認	P. 6
第 3 号議案	大会参加登録費改訂の件	別添
第 4 号議案	選挙管理委員会設置の件	
	選挙管理委員会委員 (案)	P. 7
	選挙関連スケジュール (案)	P. 8
第 5 号議案	調達規則改正の件	P. 9
第 6 号議案	会計規則設置の件	
	会計処理規則 (案)	P. 10-16
	公印取り扱い規則 (案)	P. 17-18
第 7 号議案	男女共同委員会キャリア支援委員会統合の件	
	ダイバーシティ推進委員会発足経緯	P. 19
	ダイバーシティ推進委員会規則 (案)	P. 20
第 8 号議案	地震連絡学会継続加入の件	P. 21-24
第 9 号議案	事務局職員雇用の件	
第 10 号議案	教員免許更新講習事業の件	
	指定申請要領	P. 25-31
	免講開設指定申請書	P. 32
第 11 号議案	その他	

報告事項

1. 津田代表理事職務報告	
2. 川幡理事 (ジャーナル担当) 職務報告	P. 33
3. 木村理事 (グローバル戦略担当) 職務報告	P. 34
Joint Communiqué	P. 35-36
NASA セッション報告	P. 37
ハイパーウォール企画報告	P. 38-39
International Mixer Luncheon 報告	P. 40-41
2016 年 2017 年大会準備報告	P. 42-45
4. 中村理事 (顕彰担当) 職務報告	P. 46-47
5. 成瀬理事 (顕彰担当) 職務報告	P. 48-49
6. 古村理事 (総務担当) 職務報告	
時給規則 (案)	P. 50-52
共催・協賛・後援報告	P. 53
総務担当職員雇用報告	P. 54
8. 浜野理事 (大会運営担当) 職務報告	P. 55-63
高校生ポスター発表 審査結果	P. 64
会場検討状況	P. 65-67
9. 村山理事 (システム担当) 職務報告	P. 68-76
2016 年連合大会日程案	P. 77

その他の資料

平成 27 年度第 1 回理事会議事録	P. 78-82
規則	別添

平成 27 年 5 月～平成 27 年 7 月度 入会会員

個人情報のため非公開とする

平成 27 年 5 月～平成 27 年 7 月度 入会会員

個人情報のため非公開とする

平成 27 年 5 月～平成 27 年 7 月度 入会会員

個人情報のため非公開とする

平成 27 年 5 月～平成 27 年 7 月度 入会会員

個人情報のため非公開とする

平成27年度会員数推移

正会員							准会員					大会会員					
	入会	変更(+)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	変更(-)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	変更(-)	現会員数
3月末						7610						410					699
4月	111	38	3		8	7748	20	25				1	404	40		1	725
5月	176	49	2		7	7964	49	27				1	425	79		6	776
6月	0		3	46	11	7904	1						426			13	763
7月	3		1			7906							426				763
8月						7906							426				763
9月						7906							426				763
10月						7906							426				763
11月						7906							426				763
12月						7906							426				763
1月						7906							426				763
2月						7906							426				763
3月						7906							426				763
	290	87	9	46	26		70	52	0	0	2		119	0	20	35	

大会会員
763 名

准会員
426 名

正会員
7906 名

2015/7/14

変更
大会会員より正会員へ
准会員から正会員へ

	団体会員		賛助会員	
	入会	退会	入会	退会
3月末				
4月				
5月				
6月				
7月				
8月				
9月				
10月				
11月				
12月				
1月				
2月				
3月				
	0	0	50	0
				2

全会員
8719 名
8877 名
9165 名
9095 名

3月末
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月

審議事項:委員会委員承認の件

◆大会運営委員会推薦名簿

No.	選出母体	氏名	所属	備考
1	(理事)	浜野 洋三	海洋開発研究機構	再任
2	企画	岩上 直幹	東京大学	再任
3	企画(固体地球)	興野 純	筑波大学	再任
4	企画(理事)	北 和之	茨城大学	再任
5	企画(理事)	高橋 幸弘	北海道大学	再任
6	企画(宇宙惑星)	中村 昭子	神戸大学	再任
7	企画(宇宙惑星)	和田 浩二	千葉工業大学	再任
8	企画(宇宙惑星)	大月 祥子	専修大学	再任
9	企画(宇宙惑星)	能勢 正仁	京都大学	再任
10	企画(人間圏)	財城 真寿美	成蹊大学	再任
11	企画(人間圏)	赤坂 郁美	専修大学	再任
12	企画(人間圏)	近藤 昭彦	千葉大学	再任
13	企画(固体地球)	金川 久一	千葉大学	再任

◆情報システム委員会推薦名簿

No.	選出母体	氏名	所属	備考
1	理事	村山 泰啓	情報通信研究機構	再任
2		小口 高	東京大学空間情報科学研究センター	再任
3		近藤 康久	総合地球環境学研究所	再任
4	理事	古村 孝志	東京大学	再任
5		金田 平太郎	千葉大学	再任
6		坂口 有人	山口大学	再任
7		篠原 育	宇宙航空研究開発機構	再任
8		横山 央明	東京大学大学院	再任

◆男女共同参画委員会、キャリア支援委員会 委員候補(追加)

No.	選出母体	氏名	所属	備考
1	生命地球科学セクション	守屋 和佳	早稲田大学	
2	生命地球科学セクション	濱村 奈津子	九州大学	
3	生命地球科学セクション	吉川 知里	海洋研究開発機構	

2015 年連合 代議員・セクションプレジデント・理事候補者選挙

◆選挙管理委員会委員候補

セクション	氏名	所属	備考
宇宙惑星科学	行松 彰	極地研究所	再任
大気水圏科学	長谷川拓也	海洋研究開発機構	
地球人間圏科学	吉田英嗣	明治大学	
固体地球科学	浜田 盛久	海洋研究開発機構	再任
固体地球科学	飯塚 毅	東京大学	
地球生命科学	癸生川 陽子	横浜国立大学	

月	日	曜	進行	作業
7	18	土		理事会にて選挙委員会立ち上げ
8	3	月		代議員定数確定
4	火		代議員選挙公示	ホームページ掲載、選挙特設ページ公開
10	月			
12	水		代議員立候補受付開始	
9	14	月	代議員立候補受付締切	
15	火			候補者データ送付(事務局から委員長・総務委員長へ)
15-	火			候補者データ確認 (内容:選挙管理委員会)(会員データ照合:事務局) 公開用候補者リストpdf(抱負入り)作成
16-18				◆選挙管理委員会
18	金		(投票開始1週間前まで)	理事会へ候補者リスト報告(委員長) ホームページへ掲載
24-25	木金			
29	火		代議員選挙投票開始	
10	13	火		
20	火			
27	火			
28	水		代議員選挙投票締切	
29	木			投票結果データ送付(事務局から委員長・総務委員長へ) 開票結果確認(選挙管理委員会)
30	金			◆選挙管理委員会 理事会へ結果報告(委員長)結果公開用HP準備(事務局)
11	2	月	代議員選挙開票結果公開 セクションプレジデント選挙公示	
5	木		セクションプレジデント選挙候補者受付開始	
6	金			
10	火			
13	金			
16	月		セクションプレジデント選挙候補者受付締切	
17	火			◆選挙管理委員会 候補者データ送付(事務局から委員長・総務委員長へ) 候補者データ確認 (内容:選挙管理委員会)(会員データ照合:事務局) 公開用候補者リストpdf(抱負入り)作成
18	水		(投票開始1週間前まで)	ホームページへ掲載
24	火			
25	水		セクションプレジデント選挙投票開始	
12	1	火		
8	火		セクションプレジデント選挙投票締切	
9	水		開票	投票結果データ送付(事務局から委員長・総務委員長へ) " 開票結果確認(選挙管理委員会)
10	木			◆選挙管理委員会 理事会へ結果報告(委員長)結果公開用HP準備(事務局)
14	月		セクションプレジデント選挙開票結果公開	
21	月		理事候補者選挙候補者受付開始 年末年始	
1	8	金	理事候補者選挙候補者受付締切	
13	水			◆選挙管理委員会 候補者データ送付(事務局から委員長・総務委員長へ) 候補者データ確認 (内容:選挙管理委員会)(会員データ照合:事務局) 公開用候補者リストpdf(抱負入り)作成
14	火		(投票開始2週間前まで)	ホームページへ掲載
29	木		理事候補者選挙投票開始	
2	15	月	理事候補者選挙投票締切	
			開票	投票結果データ送付(事務局から委員長・総務委員長へ) " 開票結果確認(選挙管理委員会) " 開票結果確認(選挙管理委員会)
				◆選挙管理委員会 理事会・役員候補者推薦委員会へ結果報告(委員長)
			(※選挙工程終了)	
2	22-29			◆第1回役員候補者推薦委員会 役員候補者名簿、理事候補者選挙の結果、議事録 を社員総会に提出(役員候補者推薦委員長)
			(※全工程終了)	

公益社団法人日本地球惑星科学連合調達等手続きに関する規則

2015年7月18日制定

(趣旨)

第1条 この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）が物品等の調達等を行う際に必要な手続きを定めるものである。

(契約期間)

第2条 物品等の調達は単年度契約を原則とするが、複数年契約が合理的であると判断される事項については、理事会の判断によりこれを認めることができる。

2. 前項にかかわらず、契約期間は3年を超えないものとする。

(契約手続き)

第2条 物品等の調達に必要な手続き（契約が複数年にまたがる場合には、その総額）は予算規模により次の号により定める

(1) 予算額が50万円未満の調達においては、随意契約により行うことができる。

(2) 予算額が50万円以上、500万円未満の調達では、3社以上の見積書を徴することとする。

(3) 予算額が500万円以上の調達は、第3条に定める契約手続きによる。

(入札・公告)

第3条 入札手続きは以下により行うものとする

1. 公募の公示期間及び説明書の交付期間は、原則として10日間とする。

2. 公示予定情報は、連合ホームページへの掲載による電子公告をもって行うものとする。

3. やむを得ない事情により電子公告をすることができない場合には、連合事務局の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

(随意契約)

第4条 前2条の規定にかかわらず、次の各号に掲げるいずれかの事由があるときは、随意契約による。

(1) 契約の性質又は目的が競争に適しないとき。

(2) 緊急の必要により競争入札によることができないとき。

(3) 競争入札によることが不利と認められるとき。

(規則の改廃)

第5条 この規則を改廃する場合は、理事会の議を経て行うものとする。

附則

本規則は2015年7月18日より施行する。

公益社団法人日本地球惑星科学連合会計処理規則

2015 年 7 月 18 日制定

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）における会計処理に関する基本的事項を定めるものであり、連合の収支の状況並びに財政状態について、それぞれの内容を正確かつ迅速に把握し、連合の事業活動の計数的統制とその能率的運営を図ることを目的とする。

(適用範囲)

第 2 条 この規則は、連合の会計業務のすべてについて適用する。

(会計の原則)

第 3 条 連合の会計は、法令、定款及びこの規則によるほか、公益法人会計基準に準拠して処理しなければならない。

(会計区分)

第 4 条 会計区分は、公益目的事業会計と法人会計とする。

(会計年度)

第 5 条 連合の会計年度は、定款の定める事業年度にしたがい、毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。

(会計責任者)

第 6 条 会計責任者は、理事の中から会長が指名する。

第 2 章 勘定及び帳簿

(勘定科目)

第 7 条 連合の一切の勘定は、別に定める勘定科目により処理する。

第 8 条 会計帳簿は、次のとおりとする。

(1) 主要簿

ア 仕訳帳（又は会計伝票）

イ 総勘定元帳

(2) 補助簿

2 主要簿及び補助簿の様式は、別に定める。

(帳簿書類の保存)

第 9 条 帳簿、伝票、書類の保存期間は、次のとおりとする。

(1) 予算及び決算に関する書類 永久

(2) 会計帳簿及び伝票 10 年

(3) 収入及び支出に関する証拠書類 5 年

(4) その他の会計書類 3年

2 前項の期間は、決算日の翌日から起算し、処分する場合は、会計責任者の承認を受けて行うものとする。

第3章 予算

(目的)

第10条 予算は、明確な事業計画に基づいて、資金との調整を図って編成し、事業活動の円滑な運営に資することを目的とする。

(事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書面の作成)

第11条 連合の事業計画書と収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類は、毎事業年度開始前に会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。

2. 収支予算書は、正味財産増減計算書に準ずる様式をもって作成する。

(予算の執行者)

第12条 予算の執行者は、会長とする。

2 各事業担当の理事は、所管事項に関する予算の執行について、会長に対して責任を負うものとする。

(支出予算の流用)

第13条 予算の執行に当たり、各科目間において相互に流用しないこととする。ただし、会長が必要と認めたときは、この限りでない。

(予算の補正)

第14条 予算の補正を必要とするときは、会長は、補正予算を作成して、理事会に提出し、その承認を得なければならない。

第4章 出納

(金銭の範囲)

第15条 この規定において金銭とは、現金及び預貯金をいう。

2 現金とは、通貨のほか、随時に通貨と引き換えることができる証書をいう。

3 手形及び有価証券は、金銭に準じて取り扱うものとする。

(出納責任者)

第16条 金銭の出納、保管に関しては、出納責任者を置くものとする。

2 出納責任者は、会計責任者が任命する。

(金銭出納)

第17条 金銭を収納したときは、原則として日々銀行に入れ、支出に充ててはならない。

2 領収書は、出納責任者が発行する。

3 支払いは、原則として銀行及び郵便振込制によることとし、会計責任者の承認を得て行う。ただし、小口払いその他これによりがたい場合は、この限りではない。

(預金及び公印管理)

第18条 預金の名義人は、公益社団法人日本地球惑星科学連合とする。

- 2 出納に使用する印鑑は、出納責任者が保管し、押印するものとする。
- 3 金融機関との取引を開始し、又は廃止するときは、会長の承認を得なければならない。
- 4 預金証書、出納に使用する印鑑等は、所定の金庫に保管しなければならない。
- 5 領収書用紙は、厳重に保管し、使用に際しては、年度毎の一連番号を付して発行する。
また、書き損じの領収書は破棄せず、保管するものとする。

(手持現金)

第19条 出納責任者は、日々の現金支払いに充てるため、必要最小限の手元現金を置くことができる。

(残高照会)

第20条 出納責任者は、原則として毎日、現金残高を出納簿の残高と照合しなければならない。

- 2 預貯金については、月に1回通帳の残高と帳簿残高と照合し、その結果を会計責任者に報告しなければならない。
- 3 前2項の場合において、差額のあるときは、速やかに会計責任者に報告し、その指示を受けるものとする。

第5章 財務

(資金計画)

第21条 年度収支予算に基づき、会計責任者は速やかに年次の資金計画を作成し、理事会の議を経て会長の承認を得なければならない。

(資金の調達)

第22条 連合の事業運営に要する資金は、基本財産及び運用財産より生じる利息収入、配当収入、その他の運用収入並びに会費収入、寄付金収入、事業収入、その他の収入によって調達するものとする。

(資金の借入れ)

第23条 前条に定める収入によりなお資金が不足する場合には、金融機関等からの借入金により調達するものとする。

- 2 固定資産の取得、改良、その他資本的支出に充てるための資金を借入れる場合は、原則として長期借入金によらなければならない。
- 3 資金を借入れるときは、その返済計画を作成し、理事会の承認を得なければならない。
- 4 年度の収支予算の執行に当たり、資金の一時的な不足を調整するため資金を借入れた場合には、その借入金は原則としてその年度内に返済しなければならない。
- 5 資金の借入れは、理事会で承認された収支予算書及び一時的な短期の借入れについては、収支予算書に注記されている借入限度額の範囲内で、会計責任者が会長の承認を得

て行う。

(資金の貸付け)

第24条 資金の貸付けは、別に定めるものを除き、理事会の承認を得て会計責任者が行う。

第6章 固定資産

(定義)

第25条 固定資産とは、次の各号をいい、基本財産、特定資産及びその他の固定資産を区別するものとする。

(1) 基本財産

土地（基本財産として特定した土地）

建物（基本財産として特定した建物）

定期預金（基本財産として特定した定期預金）

有価証券（基本財産として特定した有価証券）

減価償却引当資産（基本財産たる建物の減価償却相当額を積立てた預金額等）

(2) 特定資産

日本地球惑星科学連合大会記念行事開催資金

国際化推進準備資金

退職給付引当資産（退職給付にかかわる支払資金として特定した預金額等）

減価償却引当資産（固定資産の再調整のため減価償却相当額を積立てた預金額等）

(2) その他の固定資産

土地

建物（建物には附属設備を含む）

構築物

車両運搬具

什器備品

建物仮勘定（建設中又は製作中の有形固定資産、工事代金の前払い金、手付金等を含む。）

借地権

電話加入権

ソフトウェア

敷金・保証金（事務所等を貸借する場合の敷金・保証金）

投資有価証券（長期所有を目的とする公社債等）

2 その他の固定資産に掲記した有形固定資産については、耐用年数1年以上で、かつ取

得価額 20 万円以上の使用目的の資産をいう。

(取得価格)

第 26 条 固定資産の取得価額は、次による。

- (1) 購入に係わるものは、その購入価額及びその付帯費用
- (2) 建設に係わるものは、その建設に要した費用
- (3) 交換によるものは、その交換に対して提供した資産の価額
- (4) 贈与によるものは、そのとき適正な評価額

(固定資産の管理)

第 27 条 固定資産は、台帳を備え、その保全状況及び異動について記録し、異動、毀損、滅失のあった場合は、会計責任者に報告しなければならない。

(登記及び担保)

第 28 条 不動産登記を必要とする固定資産は、登記し、損害のおそれのある固定資産は、適正額の損害保険を付さなければならない。

(固定資産の売却、担保の提供)

第 29 条 固定資産を売却するときは、固定資産管理責任者は稟議書に売却先、売却見込代金、その他必要事項を記載の上、理事会の承認を受けなければならない。

2 固定資産を借入金の担保に供する場合は、前項の定めに準ずるものとする。

(減価償却)

第 30 条 固定資産の減価償却については、毎会計年度末に定額法によりこれを行う。

2 定額法により毎会計年度末に行われた減価償却額は、直接法により処理するものとする。

③減価償却資産の耐用年数は、「減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和 40 年大蔵省令第 15 号）に定めるところによる。

(現物照合)

第 31 条 固定資産管理責任者は、常に良好な状態において管理し、各会計年度に一回以上は、固定資産台帳と現物を照合し、差異がある場合は、所定の手続を経て帳簿の整備を行わなければならない。

第 7 章 物品

(定義)

第 32 条 物品とは、

- (1) 消耗品
- (2) 事務用器具備品等で取得価額 20 万円未満の有形固定資産とならないものをいう。

(物品の管理)

第 33 条 管理責任者は経費処理したもの内、物品として管理するものは、固定資産に準じて、物品管理のための台帳を備え、その記録及び整理を行わなければならない。

第8章 決算

(会計方針)

第34条 連合の重要な会計方針は、次のとおりとする。

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法について
有価証券及び投資有価証券・・・移動平均法による原価基準を採用する。
- (2) 固定資産の減価償却について
減価償却資産・・・定額法による減価償却を実施する。
- (3) 引当金の計上基準について
退職給付引当金・・・期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上する。
賞与引当金・・・支給見込額のうち当期の負担額を計上する。
- (4) 消費税の会計処理について
消費税の会計処理については、税込処理によるものとする。

(財務諸表等)

第35条 会計責任者は、毎事業年度終了後、次に掲げる財務諸表等を作成し、理事会に報告しなければならない。

- (1) 貸借対照表
- (2) 正味財産増減計算書
- (3) 正味財産増減計算書内訳表
- (4) 附属明細書
- (5) 財産目録

(財務諸表等の確定)

第36条 会長は、前条の財務諸表等について、事業報告とともに監事の監査を受けた後、監事の監査報告書を添えて理事会へ提出し、その承認を得たうえで、総会において承認を得て決算を確定する。

(その他必要とされる書類)

第37条 会計責任者は、第35条の財務諸表等のほか、次に掲げる書類を作成し、会長に報告しなければならない。

- (1) 収支相償の計算書
- (2) 公益目的事業比率の計算書
- (3) 遊休財産額の計算書
- (4) 公益目的取得財産残額の計算書

(規則の改廃)

第 38 条 この規則の改廃は、理事会の議を経なければならない。

(委任)

第 39 条 この規則の実施に関して必要な事項は、会長が別に定める。

附則

この規則は、2015 年 7 月 18 日から施行する。

公益社団法人日本地球惑星科学連合公印管理規則

2015 年 7 月 18 日制定

(趣旨)

第 1 条 この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）の印章の種類及びその制定、押印等の基準について定め、これを統一的に管理することを目的とする。

(印章の定義)

第 2 条 この規則で印章または印とは、連合が発行し、または受理する文書証拠書類等（以下「書類」という。）で、権利義務の行使もしくは履行または官庁への申請、届出等に際し、学会名または代表者名で証明のために押印する印章をいう。

(印章の管理)

第 3 条 印章の保管・押印に関する責任者は、事務局長とする。事務局長は、印章の厳正な使用に留意し、印章を使用しないときは、施錠場所に格納しなければならない。印章について紛失その他の事故が発生したときは、印章の種類に従って事務局長はすみやかに理由を付して理事会に報告説明をしなければならない。

(制定、改廃の手続)

第 4 条 あらたに印章を制定する必要を生じたとき、廃滅その他の理由により印章を改刻するときは、次の各号に規定する事項を記載した申請書を事務局長に提出するものとする。

- (1) 印章名
- (2) 使用目的及び制定の理由
- (3) 彫刻する文字
- (4) 形状、寸法
- (5) 使用開始予定日

印章を廃印とするときは、廃印の理由を記載した申請書に当該印章を添えて事務局長に提出するものとする。

なお、廃印と決定したことにより不要となった印章は、3 年間保存の後に廃する。

(印章の使用範囲)

第 5 条 印章の使用範囲は、別表のとおりとする。

(印章の使用手続)

第6条 学会印及び会長印を押印する場合には、所定の起案書に必要事項を記入し、押印すべき書類を添えて事務局長の承認を得るものとする。

(規則の改廃)

第7条 本規則の改廃は、理事会の議を経ることとする。

別表

印鑑種類	形状	番号	使用目的	適用
代表者印	丸	①	実印	印鑑証明添付を求められる書類にのみ使用
	丸	②	銀行印	金融機関のみに使用
	丸	③	契約書印	一般契約書に使用
	丸	④	機関表示等印	見積書・納品書・請求書等
学会印	角	⑤	学会印	上記①～④以外に使用（賞状、委嘱状、出張依頼書等）
	角(インク浸透印)	⑥	機関表示等印	上記④とセットで使用(見積書・納品書・請求書・領収書等)

附則

本規則は、平成 2015 年 7 月 18 日より実施する。

平成 27 年 7 月 18 日（土）

キャリア支援委員会と男女共同参画委員会の統合について

キャリア支援委員会 委員長 高橋幸宏
同副委員長 坂野井和代
男女共同参画委員会 委員長 原田尚美
同副委員長 小口千明

日本地球惑星科学連合では、法人化以前より、キャリア支援委員会の主な活動として大学院教育問題と若手研究者の就職支援を、男女共同参画委員会の主な活動としてライフワークバランスと女性研究者割合の向上を目指した活動を実施して参りました。具体的には、若手研究者のキャリアアップを支援するためには、昨今の任期付雇用問題（ポスドク問題）を直視し、その解決を目指す必要があります。加えて、若手研究者が任期付で雇用される時期がライフイベント（結婚、出産など）と重なるため、男女共同参画の視点を取り入れる必要があります。両委員会で連携を密に活動を行うようになりました。

一方で、キャリア支援も男女共同参画も、もはや若手研究者だけの問題ではありません。今後ますます重要になってくる課題は、主に中高年世代の研究者が直面するであろう介護と仕事の両立です。また、人口の減少に伴い、優秀な人材を地球惑星科学分野に確保し続けることも大きな課題です。

男女共同参画の元来の意味は、「すべての男女が共に個人を尊重しつつ、喜びや責任を分かち合い、自らの意思を持ち、一人ひとりの能力を十分に発揮できる」ことです。加えて、年齢、国籍の違いを理解しその価値を認め合うことが大切です。従って、包括的な表現である「ダイバーシティ」（多様性）を用い、多様な人材を積極的に活用してその能力を最大限発揮させることが、組織のパフォーマンスの向上に役立つ、と認識されるようになりました。このように変化し続ける社会に対応し、日本地球惑星科学連合がさらに発展し、その活力を増強させるためにも、様々な面で多様性を推進することが重要と考えます。

以上の理由から、両委員会を統合し、新名称「ダイバーシティ推進委員会」（英語名：Diversity promotion committee）として活動していきたいと、ここに提案いたします。

ダイバーシティ推進委員会規則（案）

（趣旨）

第1条 この規則は、定款及び法人運営基本規則に基づき、ダイバーシティ推進委員会に関し必要な事項を定めるものとする。

（任務）

第2条 ダイバーシティ推進委員会は、ジェンダー、世代、国籍の均衡をはかりながら地球惑星科学分野に携わる人材の多様性を高めるとともに、その個性と能力を発揮できる環境作りとネットワークづくりを行い、地球惑星科学の発展に資することを目的とする。さらに、地球惑星科学分野の大学生・大学院生、ならびにポストドクター研究員等のキャリア支援を進め、若手研究者の研究活動一般を支援する。

2 ダイバーシティ推進委員会は、第1項の活動に必要な事項、その他、目的を達成するために必要な事項について審議を行う。審議の結果を理事会に報告するとともに、理事会からの諮問に答申し、または理事会に対し意見を述べる。

（委員の任期）

第3条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

（委員長および副委員長の任期）

第4条 委員長および副委員長の任期は、委員の任期による。

附則

本規則は、2015年 月 日から施行する。

本規則の制定により、男女共同参画委員会規則およびキャリア支援委員会規則は廃止する。

日本学術会議と防災減災に関連する学会の連携推進のための 「防災減災学会ネットワーク」の創設（案）

（目的）

日本および世界の防災・減災が喫緊の課題となっている。これらの防災・減災の推進には、地震、津波、活断層、地盤、火山、地球観測、耐震工学、耐風工学、水工学、火災、防災計画、救急医療、防災教育、地域経済、都市計画など、多くの研究分野が関係する。

一方、学問の世界は専門分化がすすみ、全体を統合する力が弱くなっている。防災対策は、専門分野の枠をこえて、理工系だけでなく社会経済や医療も含めて総合的かつ持続的に取り組む必要がある。しかし、現実には、専門分野ごとに研究は進んでいるが、異なる分野との情報共有や平常時の交流は活発ではなく、行政組織との連携も不十分なため、研究成果が国や地域の防災・減災対策に反映されることは少ないのが実態である。

これまで、東日本大震災を契機に、日本学術会議の土木工学・建築学委員会が幹事となり「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」を設立し、30 学会による学際連携を進めてきた。この取組みをさらに発展させ、自然災害の防災・減災を対象により広い分野の学会の参画を得ながら、研究成果を災害軽減に役立てるため、「防災減災学会ネットワーク」を日本学術会議も参加する広い組織として創設する。

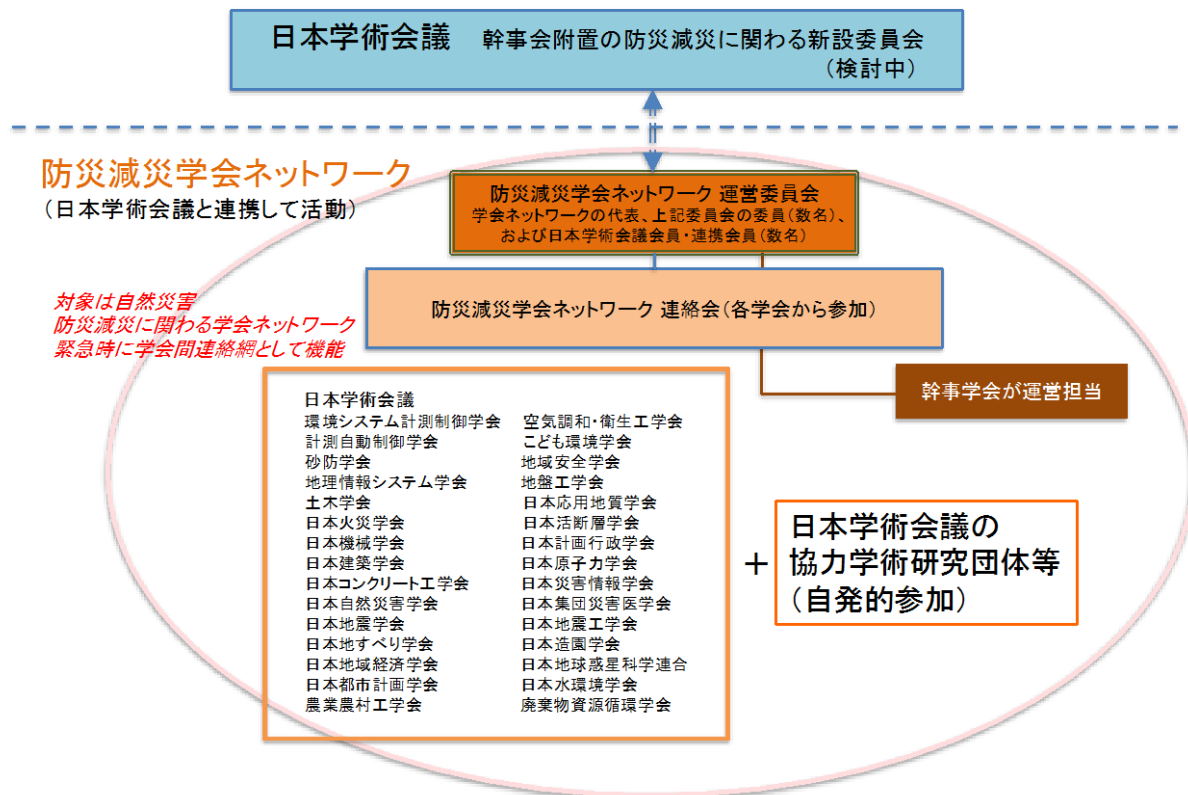
このネットワークは、日本学術会議を要として結成し、平常時は学会間の連携を深める。大災害等の緊急事態時には、日本学術会議と共に学会間の緊急の連絡網として機能することが期待される。緊急事態時に円滑に協力関係が結べるよう、緊急事態における対応についても協議する。大災害への対応は長期間にわたるため、継続性のある学会ネットワークをめざす。

日本学術会議では、平成 26 年 2 月に「緊急事態における日本学術会議の活動に関する指針」（後に関係部分を引用）を制定した。これに則り、日本学術会議幹事会附置委員会の一つとして防災減災に関わる委員会の設置が検討されている。設置の暁には、日本学術会議の役割を踏まえて防災減災学会ネットワークを育て、今後の大災害等の緊急事態にも対応できる継続性のある円滑な活動の支援が続くことが期待される。

1. 「防災減災学会ネットワーク」の創設準備について

創設準備は、東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会幹事および日本学術会議土木工学・建築学委員会学際連携分科会が主となり、東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会の実務担当者連絡会の協力を得て行う。

東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会に参加している 30 学会に加え、日本学術会議の協力学術研究団体のうち、防災減災に関係が深いと思われる団体に対して、防災減災学会ネットワークに関わる情報を伝え、自発的な参加を促す。



2. 「防災減災学会ネットワーク」 Disaster Reduction Academic Society Network について

(活動)

日本学術会議と連携し、次の活動を行う。

- 1 毎年1回シンポジウムを開催し、平常時の学会間の連携の促進を図る。
- 2 自然災害による大災害の緊急事態時に、学会間の緊急の連絡網となるべく備えると共に、政府・自治体・関係機関との緊密な連絡が取れるように備える。
- 3 学協会との情報交流を進め、次の時代を担う若手研究者の交流も図る。

(構成)

- 運営委員会：参加学会の代表、日本学術会議の新設委員会委員（数名）および数名の会員・連携会員で構成
- 連絡会：各学会の担当で構成
- 幹事学会が学会ネットワークの運営を担う
幹事学会は、規模の大きい学会による複数年ごとの持ち回りとする。

○ 運営は各学会の自発的な協力による

シンポジウムは日本学術会議の講堂、運営委員会・連絡会は日本学術会議の会議室を使用できる。運営にかかる費用は各学会が負担する。運営委員会・連絡会等に参加する日本学術会議会員・連携会員への旅費・謝金はなしとする。

(予定参加学会)

日本学術会議	
環境システム計測制御学会	空気調和・衛生工学会
計測自動制御学会	こども環境学会
砂防学会	地域安全学会
地理情報システム学会	地盤工学会
土木学会	日本応用地質学会
日本火災学会	日本活断層学会
日本機械学会	日本計画行政学会
日本建築学会	日本原子力学会
日本コンクリート工学会	日本災害情報学会
日本自然災害学会	日本集団災害医学会
日本地震学会	日本地震工学会
日本地すべり学会	日本造園学会
日本地域経済学会	日本地球惑星科学連合
日本都市計画学会	日本水環境学会
農業農村工学会	廃棄物資源循環学会

- + 日本学術会議の協力学術研究団体のうちで、防災減災に関わりが深いと思われる団体に、自発的な参加を促す。
- + 30学会のうち、協力学術研究団体に入っていない学会については協力学術研究団体への加入を促す

引用：「緊急事態における日本学術会議の活動に関する指針」より関係部分を引用
(平成26年2月28日、日本学術会議第188回幹事会決定)

1. 省略
2. 省略
3. 緊急事態における日本学術会議の主な対応

(1)から(3) 省略

(4) 災害研究学術団体等との連携

- 1 緊急事態時には、自然環境・ハザード観測、防災・減災、救急・救助・救援、復旧・復興等の研究に関連する日本学術会議協力学術研究団体を含めた災害研究学術団体等に対して、緊急事態における対応に役立つ情報の収集とそれらの提供を呼びかけるとともに、これらの団体等から得た知見を、見解の表出やその後の活動に活用する。
- 2 災害研究学術団体等から提供されるものを含め、緊急事態に関連した情報やデータ等を集約する体制をとるとともに、どのようなデータを専門家間で共有し、どのように整理したデータを社会に公表すべきかについて、必要に応じて対策委員会に分科会を設けて検討する。
- 3 緊急事態時に円滑に協力関係を結べるよう、平常時から、災害研究学術団体等と、緊急事態における対応について意見交換を行う。

(5) 海外の学術組織との連絡及び連携

- 1 海外の学術組織、学協会等と連絡をとり、緊急事態に関する情報交換を行うとともに、日本においてとるべき対応についての科学的助言を依頼する。
- 2 上記1の助言があった場合には、その内容を政府機関等の関連機関に伝達する。

以上

平成 26 年事業報告より

4. 教育・キャリア支援・社会還元等にかかわる事業

(4) 教員免許更新講習会の開催準備 [定款第 5 条 (2)]

先に開催実績のある(公社)日本地震学会へ協力を行うこととし、教育検討委員会のメンバーが講師として参加した。また、平成 27 年度には(公社)日本地球惑星科学連合主催の教員免許状更新講習を開催できるようにするための準備を行った。

平成 27 年事業計画より

教育検討委員会

- ・ 次期学習指導要領改訂に向けて中央教育審議会の作業が始まったことに関連し、それに対する教育課程小委員会からのカリキュラム案作成及び教員養成等小委員会からの教員の研修や養成のあり方について意見や提言が出せるように準備する。
- ・ Future Earth や ESD(Education for Sustainable Development)において地球惑星科学がリーダーシップを取れるような体制作りをする。その一環として 2015 年連合大会において、パブリックセッション「Future Earth 構想と地学教育及び地理教育との連携を考える」を開催する。
- ・ 連合での新規事業(教員免許状更新講習の開設・実施)に向け、神奈川県立生命の星・地球博物館等と連絡を取り合いながら開設・実施を行えるように活動する。
- ・ 地学オリンピック、地理オリンピックへの協力を引き続き行う。

高校生を対象に、地球惑星科学への認識を高めるとともに地球惑星科学の学習の促進と若年層による国際交流を深めることを目的に、国際科学(地学・地理)オリンピックの日本大会を連合の共催事業として行うほか、外国開催に関わる支援を行う。また、第 10 回国際地学オリンピック日本大会の開催準備のため支援を行う。

免許状更新講習の開設者の指定申請要領（公益法人用）

1. 申請手続き

下記（１）に記載する申請書類を、下記（２）に記載する方法により提出し、申請すること。

（１）提出書類

・a 免許状更新講習の開設者の指定申請書…様式 1

（別紙 1「指定申請書記入要領」参照）

・b 免許状更新講習認定申請書の写し

別紙 3 の指定基準第 1 号中、「ハ 免許状更新講習を開設する見込みがあること。」を踏まえ、上記 a と合わせて、免許状更新講習認定申請書（文科省に提出前のものでも良い）の写しを提出すること。

・c 法人の基本書類。○（１）定款又は寄附行為

- （２）登記簿の謄本
- （３）財産目録及び貸借対照表（最新のもの）
- （４）事業報告書（最新のもの）
- （５）収支決算書（最新のもの）
- （６）事業計画書（最新のもの）
- （７）収支予算書（最新のもの）

（２）書類提出方法

- ・ 下記の問い合わせ先に、郵送により正本一部を提出すること。
- ・ 最初に開設しようとする免許状更新講習の認定申請の締切りまでに申請すること。
（免許状更新講習の認定スケジュールについては別紙 2 参照）

2. 変更届

免許状更新講習の開設者としての指定後、以下の事項が変更になった場合には、変更届（様式 2）を提出すること。

なお、下記（２）定款・寄附行為の変更の場合には、定款・寄附行為の新旧対照表を添付すること。

- ・（１）法人の名称の変更（社団財団法人から一般社団法人・財団法人・公益社団法人・公益財団法人に移行した場合を含む。）
- ・（２）定款・寄附行為の変更

3. 指定の有効期間

免許状更新講習の開設者の指定については、原則として指定日から 5 年間を有効期間とする期限付きのものとする。期限が満了し、その後も引き続き免許状を行おうとする場合は、再度、免許状更新講習の開設者の指定の申請を行うこと。

4. 指定基準

指定基準については、別紙 3「免許状更新講習規則第 1 条第 4 号に規定する指定の基準」参照。

開設者の指定に係る様式

- ## 免許状更新講習の開設者の指定申請書（様式 1） （Excel:29KB）
- ## 変更届（様式 2） （Word:29KB）
- ## （別紙 1）指定申請書記入要領
- ## （別紙 2）平成 26 年度に開設する免許状更新講習の認定スケジュール
- ## （別紙 3）免許状更新講習規則第 1 条第 4 号に規定する指定の基準

お問合せ先

初等中等教育局教職員課

教員免許企画室認定係

電話番号：03-5253-4111（代表）（内線 3574,3575）

ファクシミリ番号：03-6734-3742

メールアドレス：menkyo@mext.go.jp

教員免許更新制

					様式1
免許状更新講習の開設者の指定申請書 (公益法人用)					
法人名称					
住 所					
業務内容					
教員研修及び教員研修に準ずるものに係る研修実績	イ 実施日時 ロ 研修の対象者 ハ 研修の目的・内容				
職員数	人				
財政状況 (直近の過去3年間について記入してください)	年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	
	総収入				
	総支出				
	負債及び正味財産合計				
担当者連絡先	(氏名)		(所属)		
	(TEL)		(FAX)	(E-mail)	
文部科学大臣 殿 免許状更新講習規則第1条第4号に規定する免許状更新講習の開設者の指定を受けたいので、上記のとおり申請します。 なお、開設しようとする講習の内容等については、別紙免許状更新講習認定申請書のとおりです。 (添付する書類) 1. 免許状更新講習開設申請書の写し 2. 法人の基本資料 (1) 定款又は寄附行為 (2) 登記簿の謄本 (3) 申請の日の属する事業年度の前事業年度における財産目録及び貸借対照表 (4) 申請の日の属する事業年度における事業計画書 (5) 申請の日の属する事業年度における収支予算書 (6) 翌事業年度における事業計画書 (7) 翌事業年度における収支予算書					
年 月 日					
(申請者名) 印					

（別紙 1） 指定申請書記入要領

免許状更新講習の開設者の指定申請書については、以下のとおり記載すること。

1 住所

住所は、主たる事務所の所在地を記載すること。

2 業務内容

定款又は寄附行為で規定する法人の業務内容のうち、いずれの業務として免許状更新講習を実施しようとしているのかを記載すること。

3 教員研修及び教員研修に準ずるものに係る研修実績

法人が現在実施している又は過去に実施した、教員研修及び教員研修に準ずるものについて、以下の内容を記載すること（必要に応じて、開催要項、プログラム等の当該研修に関する資料を添付すること）。

イ 研修の名称

ロ 実施年度、回数

ハ 研修の対象者

ニ 研修の目的・内容

4 担当者連絡先

指定の申請に当たり、事務的な連絡窓口となる担当者について記載すること。

(別紙 3) 免許状更新講習規則第 1 条第 4 号に規定する指定の基準

平成 20 年 4 月 1 日

文部科学省初等中等教育局長決定

一部改正 平成 21 年 2 月 24 日

免許状更新講習規則（平成 20 年文部科学省令第 10 号）第 1 条第 4 号に規定する指定は、免許状更新講習の開設を行うことが見込まれるものであって、次に掲げる要件のいずれかを満たすものについて行う。

- ・一 独立行政法人であって次に掲げる要件を満たすもの。イ 免許状更新講習規則第 4 条第 1 項各号のいずれかの事項に係る優れた知見を有していること。
 - ロ 教員研修及び教員研修に準ずるものに係る十分な活動実績を有していること。
 - ハ 免許状更新講習を開設する見込みがあること。
 - ニ 免許状更新講習を開設することが適当でないと認められる事由がないこと。
- ・二 一般社団法人、一般財団法人、公益社団法人若しくは公益財団法人（一般社団法人及び一般財団法人にあつては「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（以下「整備法」という。）」第 45 条の規定により一般社団法人又は一般財団法人に移行したものに限る。）又は特例民法法人（整備法第 42 条第 2 項に規定する特例民法法人をいう。）であつて次に掲げる全ての要件を満たすもの。イ 免許状更新講習規則第 4 条第 1 項各号のいずれかの事項に係る優れた知見を有していること。
 - ロ 学校教育及び学習指導要領の内容に関連した研究実績又は教員研修及び教員研修に準ずるものに係る十分な活動実績を有していること。
 - ハ 免許状更新講習を開設する見込みがあること。
 - ニ 免許状更新講習の講師を十分に確保できる見込みがあること。
 - ホ 講習の実施後も、一定期間、免許状更新講習の修了認定及び履修認定の証明を行うことができること。
 - ヘ 上記ロ及びハの講習の内容が政治的中立性に配慮され、適切なものであること。
 - ト イからヘまでの他、その他講習の実施に関する業務を適正かつ確実にを行うことができる人員及び財政的基礎を有していること。
 - チ 活動地域が全国又は複数の都道府県にわたること。
 - リ 免許状更新講習を開設することが適当でないと認められる事由がないこと。

<参照条文>

○免許状更新講習規則（平成 20 年文部科学省令第 10 号）

第一条 教育職員免許法（昭和二十四年法律第百四十七号。以下「免許法」という。）第九条の三第一項各号列記以外の部分に規定する文部科学省令で定める者は、次に掲げる者とする。・一 免許法第五条第一項に規定する養護教諭養成機関、免許法別表第一備考第二号の三及び第三号に規定する教員養成機関、免許法別表第二の二備考第二号に規定する栄養教諭の教員養成機関並びに教育職員免許法施行規則（昭和二十九年文部省令第二十六号。第九条第一項第一号において「免許法施行規則」という。）第六十四条第一項の表の下欄及び同条第二項の表の第四欄に規定する特別支援学校の教員養成機関

- ・二 都道府県又は地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第二百五十二条の十九第一項の指定都市若しくは同法第二百五十二条の二十二第一項の中核市の教育委員会
- ・三 国立大学法人法（平成十五年法律第百十二号）第二条第四項に規定する大学共同利用機関
- ・四 前三号に掲げる者のほか、文部科学大臣が指定する者

第四条 免許法第九条の三第一項第一号に規定する文部科学省令で定める事項は、次に掲げる事項とする。・一 教職についての省察並びに子どもの変化、教育政策の動向及び学校の内外における連携協力についての理解に関する事項

- ・二 教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項

2 前項第一号及び第二号に規定する事項の詳細な内容は、文部科学大臣が別に定める。

免許状更新講習の開設者の指定申請書
(公益法人用)

法人名称	公益社団法人日本地球惑星科学連合			
住 所	東京都文京区弥生町2-4-16 学会センタービル4階			
業務内容	公益社団法人日本地球惑星科学連合(Japan Geoscience Union; JpGU)は、地球・惑星科学を構成するすべての分野を専門とする研究者・技術者・教育関係者・科学コミュニケーター、そのほか地球惑星科学分野に関心を持つ学生や一般市民の方々からなる8,000名以上の個人会員と地球惑星科学関連50学協会を団体会員とする学術団体です。学術大会(日本地球惑星科学連合大会)を毎年春に開催し、年4回のニュースレター誌の発行などのほか、さまざまな学術活動や広報普及活動を行っております。地球惑星科学教育については、教育検討委員会を組織し、初等・中等教育における教育課程や、教員養成、大学および大学院教育についての検討を行い、文部科学省に向けての各種の提言を行ってきました。学術大会においては、高校生によるポスター発表会や、一般向け講演会を同時開催しています。			
教員研修及び教員研修に準ずるものに係る研修実績	イ 実施日時: 平成26年4月13日(日)9:00~17:00 ロ 研修の対象者: 小・中・高教員、地球惑星科学研究者、中学生、高校生 ハ 研修の目的・内容: 中高生を対象に、掘削船「地球」によって採取されたデータを用いた授業を行った。授業は、小・中・高の教員と大学・研究所の研究者に公開された。 イ 平成27年5月24日(日)13:00~15:30 ロ 千葉県在住の中学生 ハ 真空実験や霧箱の観察、みうら折りの実習など。NASAとJAXAの研究者による最新の研究成果の解説。 イ 平成26年12月26日(金)13:00~16:00 ロ 中高生 ハ 宇宙での微生物探査や地球形成のシミュレーション結果などについての講演会。 なお、地球惑星科学連合に加入する学会単位では、一般向け、教員向け、青少年向けの研修(免許状更新講習を含む)を多数行い、経験を積んでいる。			
職員数	12 人			
財政状況 (直近の過去3年間に ついて記入 してください)	年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度
	総収入			
	総支出			
	貸借及び 正味財産 合計			
担当者連絡 先	(氏名)		(所属)公益社団法人日本地球惑星科学連合事務局	
	(TEL) 03-6914-2080		(FAX) 03-6914-2088	(E-mail) office@jpgu.org

文部科学大臣 殿

免許状更新講習規則第1条第4号に規定する免許状更新講習の開設者の指定を受けたいので、上記のとおり申請します。

なお、開設しようとする講習の内容等については、別紙免許状更新講習認定申請書のとおりです。

(添付する書類)

1. 免許状更新講習開設申請書の写し
2. 法人の基本資料
 - (1) 定款又は寄附行為
 - (2) 登記簿の謄本
 - (3) 申請の日の属する事業年度の前事業年度における財産目録及び貸借対照表
 - (4) 申請の日の属する事業年度における事業計画書
 - (5) 申請の日の属する事業年度における収支予算書
 - (6) 翌事業年度における事業計画書
 - (7) 翌事業年度における収支予算書

年 月 日

(申請者名) 印

「H27 年度第 1 回ジャーナル企画経営メール会議（締切 6 月 28 日）」報告

H25 年+H26 度実績報告書、H27 年度交付申請書に基づく、昨年度の報告および今年度の予定について承認されたものとして、事務処理を実行・継続する。

なお、井龍康文先生からいただいたコメント

[新たなジャーナルの評価指標（オルトメトリクス：altmetrics）への対応]

「SNS を用いた PEPS 掲載論文のプロモーションを開始し、コミュニティに好評を博している。」を中間審査及び、PEPS を紹介する際の文面に加筆し、PEPS 促進を計る。

- ・ [PEPS 出版]

参加 50 学協会連合体とともに Springer 社と契約し、OA 電子ジャーナル「Progress in Earth and Planetary Science」を創刊し、順調に出版をする段階にきた。

- ・ [Review]

Review 論文は予定していた 20%より多く、30%で推移しており、Review 論文の需要が、知識の集約、将来の課題抽出など、予定したよりはるかに大きかったことがわかった。

- ・ [IF]

IF は、これまでに出版された論文の引用状況を基に試算したところ、現段階で IF=3.0 以上の値が見込める。

- ・ [JpGU 加盟学会との共同出版]

日本の地球惑星科学研究の海外への情報発信を、参加 50 学協会連合体+参加学会の国際ジャーナルの宣伝+促進も含めて、行っている。

- ・ [新規事業]

新規事業として、「データ publication」についても、実行に向けて議論を深め、できれば H27 年度中に投稿、出版を目指したい。

- ・ [新たなジャーナルの評価指標への対応]

新たなジャーナルの評価指標（オルトメトリクス：altmetrics）に対応するために、SNS を用いた PEPS 掲載論文のプロモーションを開始し、コミュニティに好評を博している。

日本地球惑星科学連合(JpGU) “Geoscience Ahead” 25 周年記念国際シンポジウム

日本地球惑星科学連合 末廣 潔 (海洋研究開発機構)

日本地球惑星科学連合 (JpGU) 設立 10 周年となる、2015 年大会では、JpGU の前身である地球惑星関連学会合同大会開始からの 25 周年*を記念した国際シンポジウム “Geoscience Ahead” (セッションコンピーナー: 木村 学, Simon Wallis, 末廣 潔) を、ユニオンセッションとして開催しました。

まず、JpGU と相互に覚書を交わしているアジアオセアニア地球科学学会 (AOGS)、欧州地球科学連合 (EGU)、そして米国地球物理学連合 (AGU) の現会長 (学会順に Chen Yun-Tai, Hans Thybo, Margaret Leinen 氏) と、JpGU の津田敏隆会長の 4 名それぞれの立場から、学会の役割と地球科学の将来へ向けてのメッセージを参加者に発信いただきました。続いて、JpGU の 5 つのセッションから推薦された若手・中堅研究者 5 名 (宇宙惑星科学: 関 華奈子氏, 大気水圏科学: 渡部雅浩氏, 地球人間圏科学: 山野博哉氏, 固体地球科学: 井出 哲氏, 地球生命科学: 上野雄一郎氏) が、それぞれの専門分野の最前線をわかりやすく講演いただきました。さらに、日本学術会議 (SCJ) 会員の中村 尚氏には、SCJ の国際学界における役割をご説明いただきました。

異なる国の文化、世代、さらに分野をまたいで Geoscience Ahead というテーマでどのような方向が見えるのか、コンピーナーも予測しがたいところでしたが、そこにみなさまの関心興味をひく緊張感を感じていただければと企画しました。

講演後にパネルディスカッションの時間を設け、4 学会の会長とともにそれぞれの前会長にもご登壇いただき、(1) 科学と社会、(2) 科学の最前線の振興、そして (3) 国際学会の多様性と在り方、その他について議論しました。最後に、パネラーには共同声明に賛同いただき、

その場で署名式も行うことができました (共同声明の内容: www.jpгу.org/whatsnew/Communique.pdf)。なお、4 会長と中村氏の講演内容は動画配信していますので、ウェブ上でご覧になれます (<http://www.jpгу.org/664/movie.html>)。

コンピーナーとして、講演者、パネラーの本音が見えるセッションになるよう工夫したつもりです。他のセッションや行事とも重なったこともあり、客席が時間とともにまばらになったのは反省点ですが、議論の中身には重要な指摘が含まれていたと思いますので、感想としていくつか記しておきます。

まず、ここに参集した 4 学会は、めざす学問振興については共通していますが、地理的にも、文化的にも、歴史的にも、それぞれ異なったよさを持っていること、そこに自信をもって価値を見いだしていることが見えたのではないのでしょうか。そのうえで、声明では、連携、連帯できるところは具体的に議論する機会を毎年作りましようとする約束しました。学会としては、政治との関わりにおいて中立を保ちつつ、学問の成果を社会に向かって敷衍していくことに積極的であるべきことなどが論じられました。またフロアからは、4 学会共同でそのような役割の協調を図るよう、また 4 学会ではカバーしきれない地域が世界にはあり、そういう認識も必要であるとの指摘もありました。

4 学会に限らず、学会とはそこに集う参加者が顔を合わせて直接コミュニケーションをとる貴重な機会ですので、その機会の最大活用ができるような学会でありたいものです。

*: JpGU の設立は 2005 年で、最初の連合大会は 2006 年に開催、前身である地球惑星科学関連学会合同大会の第 1 回大会は 1990 年 4 月に東工大キャンパスで開催。



パネルディスカッションから: 左から Margaret Leinen (AGU), Carol Finn (AGU), Chen Yun-Tai (AOGS), Kenji Satake (AOGS), Hans Thybo (EGU), Toshitaka Tsuda (JpGU) のみなさま。



地球惑星科学の最前線を伝えてくださった 5 人の一人、上野雄一郎氏

地球惑星科学振興西田賞について

日本地球惑星科学連合 顕彰担当理事 中村 正人 (宇宙科学研究所)

地球惑星科学振興西田賞 (以下: 振興西田賞) は宇宙科学研究所の元所長で、日本学術会議の会員を務められた、日本学士院会員の西田篤弘会員のイニシアチブによって創設された賞です。受賞者への

副賞は西田会員からのご寄付によって賄われますが、この賞に西田会員のお名前が冠せられているのはそれだけの理由によるものではありません。



Japan Geoscience Union

URL: www.jpgu.org Mail: office@jpgu.org

Makuhari 2015: Joint Communiqué

The American Geophysical Union (AGU), the Asia-Oceania Geosciences Society (AOGS), the European Geosciences Union (EGU), and the Japan Geoscience Union (JpGU) collectively represent geoscientific communities around the globe together with other societies for geoscientists.

Upon the 25th anniversary of JpGU, the leadership of these four organizations met together for the first time during the Annual Meeting of JpGU in May, 2015 to exchange views held by each organization and to discuss future directions and collaborations.

Recognizing the extreme importance of scientific knowledge and understanding of the Earth and planetary systems for the benefits of humankind;

Recognizing and adapting to geohazards and other changes associated with climate change;

Recognizing the importance of correctly communicating scientific views and understanding to the general public and the policy makers;

The participants of the Anniversary Symposium have agreed to meet annually at one of the annual meetings of AGU/AOGS/EGU/JpGU to continue the discussion and to implement action plans to better serve the global geoscience communities, and hence advancing science in order to cope with global issues affecting the well being of the future state of Earth and humankind.

Specifically, we agreed to implement the following:

The hosting organization of the proposed annual meeting will take lead in setting the theme, scheme and the goals of each meeting.

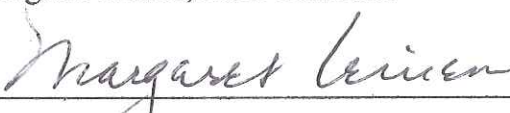
Japan Geoscience Union

URL: www.jpgu.org Mail: office@jpgu.org

This Joint Communiqué will take effect on the date of its signatures by the Participants of the JpGU 25th Anniversary Symposium Panel Discussion.

The Participants may amend this Joint Communiqué upon their mutual written consent.

Margaret Leinen, AGU President



Signature

May 26, 2015

Date

Carol Finn, AGU Past President



Signature

May 26, 2015

Date

Yun-tai Chen, AOGS President



Signature

May 26, 2015

Date

Kenji Satake, AOGS Past President

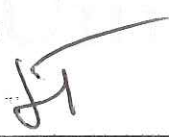


Signature

May 26, 2015

Date

Hans Thybo, EGU President



Signature

May 26, 2015

Date

Toshitaka Tsuda, JpGU President

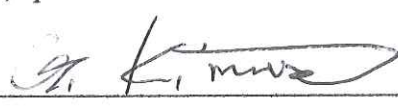


Signature

May 26, 2015

Date

Gaku Kimura, JpGU Past President



Signature

May 26, 2015

Date

NASA セッション (JpGU2015) について

村山泰啓 (グローバル戦略委員会)

2015 年大会での NASA セッション「NASA ミッションと日本の地球惑星科学／Science Landscape of Japan with NASA Space Missions」はユニオンセッションとして開催された。NASA 科学ミッション本部・地球科学部長 Michael Freilich 博士をはじめ国内外からの講演者を迎え、NASA および JAXA・NASA が共同で実施する地球惑星科学分野の宇宙ミッションについての講演が行われた。2014 年に打ち上げられた GPM をはじめとする大気観測、また海洋・地表観測に関するミッション紹介や最先端の観測研究成果の講演が行われ、これらに関する活発な質疑応答があった。また、あわせて NASA ハイパーウォール展示も行われ、NASA および JAXA スタッフによる、動画をふくめたライブ感のある紹介が行われた。

NASA 側の主要な関心は、JpGU とのサイエンスセッションをもつことであり、日本で最先端の研究活動・研究者との交流を図っていきたい意図があるとのことであった。特に地球観測に関心が高く、今回のセッションでは、人工衛星ミッションによる降雨・降水観測、雲観測、海洋観測、地表観測、また気候変動問題、を主なトピックスとした。

NASA からの参加者は Michael Freilich 博士、Dalia Kirschbaum 博士、David Crisp 博士 (JPL) がセッション講演者として登壇した。

NASA-JAXA ハイパーウォール展示企画@JpGU2015 報告

2015.07.15(水) JAXA/ISAS 飯田佑輔

JpGU2014 から引き続き行われた、JpGU2015 における NASA-JAXA ハイパーウォール展示企画(9枚の大画面ディスプレイを連結して行う展示; 以下、HW)について、報告する。本報告は、特に初めて行われた千葉市の中学生に対するアウトリーチ活動に集中する。NASA メンバーは、JpGU2014 から引き続き Freilich 氏を始めとする地球観測グループを中心に、Jet Pulsation Laboratory(JPL)から2名の惑星分野の科学者が参加した。

中学生向け活動については、JpGU2014 後に NASA-JAXA 共同で行った AOGS2014 に端を発する。JpGU2014 の後に、NASA 側から高校生向けにハイパーウォール講演を行いたいという打診を受けた。打診を受けたのが開催の3週間ほど前ということで、急ピッチでの準備となった。AOGS2014 では、札幌の米国大使館が中心となり札幌のスーパーサイエンスハイスクールを中心に声かけを行うという流れで行った。110名の高校生、10名の引率教員の方が参加希望ということで、何グループかに別れてもらうことが決定した。また、手持ちぶさたになる高校生達に何らかの科学アクティビティを行おうということで、NASA から2ブース(UV ビーズ、科学パズル)、JAXA から1ブース(偏光板)を急遽提供することとなった。当日 JAXA 関係者に手伝いを要請するなど多少の混乱が見られたものの、高校生や引率教員からは面白かったので再度行うときはぜひ連絡を、と予想以上の反響であった。

2014 年末から、JpGU 事務局、NASA、JAXA で JpGU2015 における展示について話し合いが行われた。AOGS2014 での高校生向け企画が好評であったことから、JpGU2015 においても学生向け企画を行おうということになった。JpGU では高校生向け企画が例年実施されていることから、JpGU でのターゲットは千葉県の中学生ということになった。HW を使った講演を基軸として、自分の身体を動かす科学アクティビティを多く行うこととなった。具体的には、NASA から3アクティビティ(UV ビーズ、パズル、ペットボトル工作)、JAXA から2アクティビティ(偏光板、真空実験)、また東京大学のサイエンスコミュニケーションサークル CAST から1アクティビティ(みうら折り)の企画が行われた。どの企画も NASA や JAXA で行っている宇宙科学研究や衛星観測に関連しており、15-30 分程度で終わるものである。中学校への周知は、白井佳代子事務局員から千葉県教育委員会を通して行われた。約80名の中学生、約10名の引率教員の応募があった。今回は中学校別で5グループに別れてもらい、地学オリンピックを通じて募集した学生アルバイトにそれぞれのグループを引率していただいた。この学生アルバイトの引率により、AOGS2014 で見られた多少の混乱は起こらずスムーズに進行ができた。

当日は Freilich 氏と藤本教授のあいさつから始まり、HW 講演や科学アクティビティなど滞りなく行われた。中学生達は、初め緊張していたものの、慣れるとしきりに質問をしていた。4 時間ほどであったが、NASA や JAXA の科学者と直接触れ合ってもらえたのではないかなと思う。中学生達はまだ質問したい様子だったが、疲れが感じられたので休憩時間をとるとよいかもしい。また、中学生ということで、話している内容が理解できるか心配していたが、反応は上々で大雑把には伝わったのではないかなと思われる。また、事後アンケートでは「英語の必要性を感じた。勉強しないといけないと思った。」という感想があるなど、科学内容以外で認識を新たにした中学生は多かったようだ。中学生の若い時期に、このような国際的な学会を体験してもらうことは、彼らの目標の具体化と私たち日本の科学業界にとって有益ではないかなと感じた。反応は上々で、来年度以降も行うのであれば是非声かけをという声が聞かれた。

本年度の問題点として挙げられるのが、科学者向け講演において昨年度よりもギャラリーが少なく盛り上がり欠けたことである。これは科学セッションとの時間的兼ね合いが悪かったこと、HW 展示の場所が予想以上に奥まってしまって目立たなかったことが原因であると感じられる。前者については科学セッションプログラムとの考察を丁寧に行うこと、後者については展示ホール入り口付近で行うことで対策としたい。

来年度以降での JpGU における展示について、NASA 側は積極的であった。特に、広報担当の Winnie 氏は、中学生向け講演が大成功であったと感じているようで、来年度は他出展者とも事前に協力するような中学生向けイベント(クイズラリー?)を行いたいと漏らしていた。そのようなことが可能であるかは、JpGU との調整が必要であるが前向きに検討していただければと思う。その際は、これまで以上に JpGU 事務局・NASA 広報の密接な連携(+JAXA の補助)が必要となるだろうと感じるが、これは宇宙惑星分野のみならず他分野も巻き込んだ組織的なアウトリーチ活動につなげられるチャンスではないかなと思う。来年度以降についてどのような方向性が JpGU にとってよいのか、議論していただければと思う。

International Mixer Luncheon

橘 省吾（グローバル戦略委員会）

2015 年大会において、初の試みとして International Mixer Luncheon を開催いたしました。参加者は 60 人程度で、当日は趣旨説明のあと、各テーブル（1 テーブル 10 名）で昼食を取りながら、交流を深め、最後にアンケートを提出していただきました。各テーブルにはグローバル戦略委員会メンバーが一人以上、着席し、必要に応じて、議論のリードをおこないました。未登録の方で当日参加を希望された方がそれなりにいたこと、登録して来なかった方がおられたことで慌ただしい場面もありましたが、全体としては盛会で、国際交流ならびに日本の地球科学・JpGU に対する意見の吸い上げという当初の目的は達成されたと考えます。

次回への申し送り事項として以下を挙げておきます。

- ・セッションからランチョンまでの時間が短く、設営時間の余裕がない
- ・ランチョン終了から午後のセッション開始までの時間も短く、撤収時間にも余裕がない
- ・午前のセッションが早めに終わる部屋もあるので、そのような部屋を利用する
- ・スペシャルレクチャーに出てから来ると思われた登録者が来なかった
- ・スペシャルレクチャーには参加できないという但し書きを付けて募集するのがよい
- ・当日参加希望も出るので、多めに弁当を発注
- ・申込時で人数が十分な場合は、受付で登録者のみと断るようにする
- ・受付にバイト学生を配置する
- ・ベジタリアン向け料理は使用具材の確認もしておく

アンケート回収は 43 通でした。

Age	20-29	10
	30-39	13
	40-49	8
	50-59	9
	60-69	2
	over 70	1

Country of origin

Africa	1
Asia/Oceania	22
Europe	15
North America	4
South America	1

Length of time spent living in Japan

More than 1 year	18
1 to 2	6
2 to 4	6
5 to 10	5
Over 10 years	5
NA	3

Current position

Researcher	13
Graduate student	16
Faculty	14

当日の流れ、進行 5月25日（月）1-2PM 103号室にて

- 13:00-13:10 趣旨説明（橘）
- 13:10-13:40 ランチ＋自己紹介＋議論
- 13:40-13:55 アンケート紹介
- 13:55-14:00 自由議論

以上



Japan Geoscience Union

URL: www.jpgu.org Mail: office@jpgu.org

日本地球惑星科学連合
セクションプレジデント
バイスプレジデントの皆様

2015 年 6 月 12 日

2016 年大会プログラム委員長
西山忠男

AGUとのジョイントセッション準備のお願い

皆様方におかれましては、平素より日本地球惑星科学連合の活動に並々ならぬご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、先般 5 月 19 日付けメールにてご連絡いたしましたように、2016 年大会は AGU とのジョイントセッションを設けることになりました。そのあり方について、また 2017 年大会における AGU との合同開催について、今年度第一回の理事会で設置された大会準備タスクフォース(末広チェア)が AGU との協議を進めているところでございます。その詳細につきましては、いずれタスクフォースより説明があるかと存じますが、本日は 2016 年大会ジョイントセッションの準備につきまして、各セクションにお願いがございます。

2015 年大会では 55 件の国際セッションが開催されました。2016 年大会におきましても、ほぼ同数の国際セッションは確保した上で、AGU とのジョイントセッションを新たに 10 から 15 件程度設けたいと考えています。ジョイントセッションの件数は当初 20 件程度を想定していましたが、AGU との協議によりこの程度の数に落ち着きました。

国際セッションとジョイントセッションの識別を鮮明にするために、ジョイントセッションは、JpGU の各セクションと AGU の各セクションとの間の協議によりセッション提案をしていただくことになりました。AGU の希望としては、まず JpGU 側からアクションを起こしてほしいとのことです。つきましては、各セクションから、対応する AGU のセッションの責任者に連絡を取って頂き、ジョイントセッションのプランニングをしていただくことをお願いいたします。各セクションあたり 2 件または 3 件のご提案をお願いしたいと存じます。

セッション提案は 9 月 1 日開始ですから、それまでにセッションテーマとコンビーナー(JpGU 側と AGU 側双方)を決めていただき、招待講演者の目安などを立てて頂きたいと考えております。できるだけ多くの参加者が得られるように、AGU 側とご相談いただければ幸いです。

なお、国際セッションに関しましても、2015 年と同数程度の件数が確保されますように、合わせてご尽力のほどお願い申し上げます。

以上

TO: JpGUセクションプレジデント、バイスプレジデント、幹事のみなさまへ、
FROM: JpGU2016/17大会国際準備タスクフォース（仮称）
SUBJECT : AGUとの共同セッション（co-sponsored sessions）準備について
DATE: 2015年6月15日（月）

2016年の大会におけるAGUとのジョイントセッションの準備について西山プログラム委員長からご案内されたところですが、経緯をご説明します。

まずは、急なお願いにも関わらず、JpGU各セクションに対応すると考えられるAGU側のセクション、フォーカスグループ（S/FG）を教えていただきありがとうございました。それをとりまとめてAGU側に持参したものを添付します。また、6月の4-5日にAGU本部で行われました、AGU側との協議により、彼らがAGUの全S/FGに6月15日に送付するメッセージも添付します。私の不手際で、Nonlinear Geophysics FGを含めず22 S/FGとしていましたが、正確には23 S/FGでした。NG-FGのウェブサイト(ng.agu.org)を見ますと、JpGUの全5セクションと関連するテーマを扱っているようです。ご検討に追加くださるようお願いいたします。

6月15日（米国時間）をもって、ジョイントセッション、ジョイントミーティングの企画が、全AGU S/FGに伝わることとなりますので、西山委員長の連絡にありますよう、アクションを起こしてくださるようお願いいたします。当面は2016年のJpGU大会ですが、AGU側の文書にあるように2016年のAGU Fall Meetingにおいても、セッションが継続されることが望ましいところですのでそれも念頭におかれませうお願いいたします。

9月1日がセッション提案開始でありますので、時間的余裕はあるようにも見えますが、米国から参加してもらうためには、旅行の予定がしっかり立てられるように十分の猶予が必要です。また、旅費を申請するに当たっては、その出張を積極的に支持するような参加セッション名と内容が望ましいとも聞いております。なぜ通常のAGUではなく、日本のJpGUとのジョイントセッションに参加するのかの説明です。すでに皆様の方がお詳しいところと思いますが、念のためお知らせします。

AGUの言う、co-sponsored sessionsとは、AGUとJpGUのふたつの冠がつくという意味です。そのロゴとかは検討中です。また、西山委員長とAGUの2016年までのプログラム委員長（Denis-Didier Rousseau）との協議によりジョイントのテーマでユニオンセッションを企画することになりました（2テーマ程度合わせて半日分+程度を予想）。これらもジョイントセッション企画の一部となります。科学的論議の場として（Great Debates）ホットなトピックなどご提案を西山委員長にお願いします。科学論議以外のアウトリーチ、教育、オープンサイエンス、国際化などのようなテーマでもよろしいかと思えます。

末廣 潔

JpGU 2017 年大会準備タスクフォースヘッド

AGU Sections (S) and Focus Groups (FG)	website	Consideration for Joint Sessions with AGU. Secondary consideration in parentheses (dependent on AGU side).		ongoing association
Atmospheric & Space Electricity FG	ase.agu.org	Atmospheric and Hydrospheric Sciences		
Atmospheric Sciences S	atmospheres.agu.org	Atmospheric and Hydrospheric Sciences	Oceanogr. Soc. Jpn.	
Biogeosciences S	biogeosciences.agu.org	Biogeoscience		
Cryosphere Sciences FG	cryosphere.agu.org	Atmospheric and Hydrospheric Sciences	Oceanogr. Soc. Jpn.	
Earth and Planetary Surface Processes FG and NonLiner Geophysics NG	epsp.agu.org and ng.agu.org	Human Geosciences	(Oceanogr. Soc. Jpn.)	
Earth and Space Science Informatics FG	essi.agu.org	(Space and Planetary Sciences)		
Geodesy S	geodesy.agu.org	(Solid Earth Sciences)		
Geomagnetism and Paleomagnetism S	geopaleomagnetism.agu.org	(Atmospheric and Hydrospheric Sciences)		
Global Environmental Change FG	gec.agu.org	Space and Planetary Sciences		
Hydrology S	hydrology.agu.org	Solid Earth Sciences		
Mineral and Rock Physics FG	mrp.agu.org	Human Geosciences		
Natural Hazards FG	nh.agu.org	Atmospheric and Hydrospheric Sciences	Oceanogr. Soc. Jpn.	ongoing relation
Near Surface Geophysics FG	nsg.agu.org	Solid Earth Sciences		
Ocean Sciences S	oceans.agu.org	Human Geosciences		
Paleoceanography and Paleoclimatology FG	paleo.agu.org	Atmospheric and Hydrospheric Sciences	Oceanogr. Soc. Jpn.	
Planetary Sciences S	planets.agu.org	(Human Geosciences)		
Seismology S	seismology.agu.org	Human Geosciences		ongoing relation
Societal Impacts and Policy Sciences FG	sfg.agu.org/sips/	Human Geosciences		
Space Physics and Aeronomy S	spa.agu.org	Atmospheric and Hydrospheric Sciences		
Study of the Earth's Deep Interior FG	sedi.agu.org	Space and Planetary Sciences		
Tectonophysics S	tectonophysics.agu.org	Atmospheric and Hydrospheric Sciences		SEDI 2014 in Japan
Volcanology, Geochemistry, and Petrology S	vgp.agu.org	Solid Earth Sciences		
		(Biogeoscience)		

2016 年・2017 年連合大会予定

The screenshot shows the header of the JpGU Meeting 2015 website. The header includes the logo for Japan Geoscience Union Meeting 2015 (May 24th - 28th, MAKUHARI MESSE) and navigation links for Japanese, English, and a site menu. Below the header is a dark navigation bar with links for 'コンピーナの方へ' (For Co-ordinators), '学生の方へ' (For Students), '出版者の方へ' (For Publishers), 'プレスの方へ' (For Press), and '研究者以外の方へ' (For Non-researchers). A 'JpGU ログイン' (JpGU Login) button is also present. Below the navigation bar is a 'WHAT'S NEW' section dated April 10th, mentioning the closing of the registration for the 2015 meeting. Below this are several logos of sponsors and partners, including JpGU2015, Little River Research Design, IHI GROUP, TRIES, and Kyoto University. The main banner for the JpGU Meeting 2016 is displayed, announcing the dates May 22nd (Sun.) to 26th (Thu.) at Makuhari Messe, Chiba. It also mentions the collaboration between the Japan Geoscience Union (JpGU) and the American Geophysical Union (AGU) for the 2016 and 2017 annual meetings. Below the banner are four colored boxes with links: 'マイスケジュール' (My Schedule) in green, 'セッションを見たい' (I want to see sessions) in blue, '日程表を見たい' (I want to see the program) in blue, and '連合大会に参加したい' (I want to participate in the joint meeting) in pink, which also notes that pre-registration has closed.

◆2016 年連合大会

開催日程：2016 年 5 月 22 日（日）-26 日（木）

開催場所：幕張メッセ

大会委員長：日比谷紀之（東京大学・学協会長会議議長）

プログラム委員長：西山 忠男（熊本大学）

◆2017 年連合大会

開催日程：2017 年 5 月 21 日（日）-25 日（木）

開催場所：検討中

大会委員長：未定（次期学協会長会議議長）

プログラム委員長：Liu Huixin（九州大学）

振興西田賞申請不達問題について

2015 年 7 月 顕彰担当理事 中村正人

- 1) 振興西田賞の申請はメールベースで行った
- 2) 提出先は振興西田賞事務局のアドレスを作成し、具体的には顕彰担当理事である中村が開封した
- 3) 審査終了後、審査結果の問い合わせがあり、ある推薦者からの申請が届いて居らず、推薦された人物の審査が行われて居ないことが判った。事情を調べたところ宅ファイル便サービスにより送付されたものと判った。不達の理由は不明であるが、中村のメールサーバーが SPAM としてはじいた等が考えられる
- 4) 申請要項には、申請をしたことの確認メールが事務局から返されるので、もしそれが一週間以内に届かなかった場合は事務局に問い合わせることという注意がされている。今回の場合、推薦者からの問い合わせは無かったため、問題が審査前には明らかにならなかった
- 5) 推薦された人物は 2015 年時点で 45 歳であり、次回の振興西田賞審査を行う 2017 年には応募資格がない。
- 6) 担当理事として、中村が振興西田賞審査委員会に事情を説明し、救済策として例外的にこの人物の 2017 年の応募あるいは推薦を認めるべきかどうかの意見を求めた
- 7) 意見集約の資料にある様に 13 名の委員のうち 11 名が否定的意見であり、近藤審査委員長から応募は認めないことが委員会の結論である事を伺った。また西田会員は賞の原則が曲げられることの無いようにとの希望を持っておられる。
- 8) (7) の理由から顕彰担当理事として次回振興西田賞の応募において例外を認めないことを理事会で確認して頂きたい

以上

顕彰関連報告

委員	次回応募は可か不可	理由	コメント
A	次回の応募を認めない。	推薦者の不注意で生じたミスに対し例外的な措置をとると、今後、同様な事態が生じた時にどうするかという問題が継続して起きる。今後の新たな委員会の対応のために今回、上記の措置が良いと考える。候補者には誠に残念なことになるが、そのような推薦者を選んだことは候補者の責任でもある。 大変不運だったと大いに同情しますが、推薦者が必要な処置を怠ったのも事実であり、規定通りにすべきだと思います。	
B	次回の応募を認めない。	文書を添付した電子メールによる申請では、エラーの可能性も多分にあるので、送受信の確認をとることは常識です。その必要性も募集要項に明記されているのであれば、単に推薦者の方のミスです。特別の対応をする必要はないと思います。今回のことは、明文化されている確認をしなければならず、推薦者の責任の問題であり、特別の配慮は不要だと思います。ただし運合としては、今後このようなことがおこらぬよう、デジタルデータだけでなく、紙媒体の提出も求めるなどの改善の余地はあるかと思いますが、大学人事が面倒でも紙媒体に依っているのはこの理由です。	
E	次回の応募を認める	第1回で不運であった。制度上、他薦がなければ自薦した可能性もある。	
F	次回の応募を認めない。	推薦者の方が確認を怠ったということ。年齢制限は変更できないということ。	
G	次回の応募を認めない。	メール不運について確認を怠ったのは応募者(推薦者?)の責任であり、このような例外を認め始めるときりがなくなる恐れがあります。	
H	次回の応募を認めない。	年齢の制限が規約にあるため、次回に仮に受賞された場合、他の候補者との不整合が生じる。次回への応募の可能性を検討する必要があるとは思いますが、仮にそうなる場合は規約を改定すべきです。	メールの不運事故は確率は低いとはいえ、起こりうることであります。既に徹底されていることではありますが、募集時の注意喚起を改めて強調すべきと感じました。
I	次回の応募を認めない。	すでに公表した(想定した)ルール・約束内の問題で有り、新たに対応の必要はないし、個別の対応をすること自体が問題である (問題をあらたに作る可能性も有り)。	想定外の問題としては、「西田賞」がそれほど連合内で強く認識されていなかったと思われることが挙げられる。これは「候補者・受賞者の分野間の偏り」に見られ、審査の過程・結果を経て認識された問題。 例えば固体分野でいえば、当然候補者に入っていない人たちが、リストに上がっていないという事実がある。 この点を鑑み、西田賞の募集を来年も行うべきと考える。最初の3年くらいは、毎年(数を減らして?)受賞者を厳選し、スタンダードを作るべき。また偏りもなすよう意識する。また隔年の募集により、年齢制限により漏れる候補者を減らすことにもなる(この過程で、今回の「応募者」が応募可能になると良いが)。
J	次回の応募を認めない。	受領の確認は推薦者にあると応募文書に書かれていますので、年齢制限を超えて応募を受け付けることはできないとおもいます。応募文書に上記注意が仮に書かれていないとしても、応募の許可は難しいとおもいます。	メールによる応募にはこのような事故がありうる。で、今回は、応募を呼びかけるメッセージを出す場合には、同時に受領メールが来ているかを確認して欲しいと付け加えると良いかもしれません。 また、現在応募先は、jpgu_nishidasho@icloud.com となっていますが、アンダーバーをハイフンに変えたjpgu-nishidasho@icloud.com のアドレスも作り、自動的にjpgu_nishidasho@icloud.comに転送できるようにすると良いかもしれません。
K	次回の応募を認めない。	「受領の確認メールが一週間以内に届かない場合は電話にてお問い合わせ下さい。」	
L	次回の応募を認めない。	下記の状況の説明を読む限り、jpguに大きな落度があったとは認めがたく、現在の規則の範囲で特別な配慮をする余地が見当たらない。 (超法規的措置となることは避けるべきである)	上記は、現在の規則の範囲でとの限定での結論ですが、今回の選考過程の議論で、現状の募集要項、規則等が必ずしも十分でなく、次回に向けて、たとえば受賞件数や枠の縛り、場合によっては隔年受賞の件についても議論がなされると理解しています。その過程のなかで、今回のケースのような場合の対応も含め、それなりの議論があり、結果的に次回の応募が可能になるということなら全く問題ないと思います。現時点で、超法規的措置をとらなければならない緊急性はそれほど認められないので、全体としての規則等の見直しの中で議論されるのが望ましいと思います。
M	次回の応募を認める	原則としては、推薦者のミスだが、 1) 件の候補者が、実質上、今回は「該当なし」であった生命分野の研究者であること。 2) 業績が今回の受賞者10人の誰よりも遥かに高いこと。 3) 被推薦者自身の責任でないこと。 4) 初めての選考で、推薦する側も処理する側も不測の事態の対応に慣れていたこと。	

学生優秀発表受賞者 セクション別

No.	セクション	発表者	所属	発表タイトル	セッションID	セッション
1	P	大石 峻裕	東京大学大学院理学系研究科	その場年代測定のための飛行時間型質量分析装置の開発	P-CG31	宇宙科学・探査の将来計画と関連する機器・技術の現状と展望
2	P	齋藤 泉	京都大学大学院理学研究科	ニュートン冷却を散逸過程とする強制浅水乱流における赤道西風形成のメカニズムについて	P-CG32	惑星大気圏・電磁圏
3	P	伊藤 一成	東北大学大学院理学研究科	金星GCMへの硫酸雲の導入	P-CG32	惑星大気圏・電磁圏
4	P	飯島 陽久	東京大学大学院理学系研究科	太陽形層における微小構造に関する二次元数値シミュレーション	P-EM07	Space Weather, Space Climate, and VarSITI
5	P	Martinez Calderon Claudia	名古屋大学太陽地球環境研究所	One-year statistical analysis of ELF/VLF emissions at subauroral latitudes at Athabasca, Canada	P-EM08	Progress in Physics of the Inner Magnetosphere
6	P	久保田 結子	京都大学 生存圏研究所	プラズマ圏内におけるEMICトリガー放射によって誘発された放射線帯電子の降下現象	P-EM08	Progress in Physics of the Inner Magnetosphere
7	P	内野 宏俊	京都大学大学院理学研究科	接近する2つのフロートフロント間におけるイオン加速：磁気圏尾部での高エネルギーイオン生成への応用	P-EM09	Dynamics in magnetosphere and ionosphere
8	P	Perwitasari Septi	東北大学 惑星プラズマ・大気研究センター	Statistical Study of Concentric Gravity Wave in the Mesopause by using the IMAP/VISI Data	P-EM11	New frontier: Observations of the middle and upper atmospheres from ISS
9	P	小財 正義	信州大学大学院総合工学系研究科	Global Muon Detector Network (GMDN) で観測された惑星間空間擾乱の平均像	P-EM25	太陽圏・惑星間空間
10	P	諫山 翔伍	九州大学総合理工学府	ヘリコンプラズマ生成の自己無撞着モデル	P-EM26	宇宙プラズマ理論・シミュレーション
11	P	山口 雅央	東京工業大学大学院理工学研究科	SVM法を用いた火星表面の磁気異常マッピング	P-PS05	Mars
12	P	深井 稜汰	東京工業大学大学院理工学研究科	完全分解法を用いたコンドライト隕石全岩の高精度Nd同位体比測定	P-PS22	太陽系における惑星物質の形成と進化
13	P	加藤 伸祐	名古屋大学大学院環境学研究科	月の最後の海の火成活動と表面地形との関係	P-PS23	月の科学と探査
14	P	新井 達之	東京工業大学大学院理工学研究科	マグマオーシャン結晶分化による月殻長岩の形成	P-PS23	月の科学と探査
15	A	森 樹大	東京大学大学院理学系研究科	水中に含まれるブラックカーボン粒子の測定法の確立と東京地上観測	A-AS21	大気化学
16	A	石川 満範	信州大学工学部土木工学科	浅間山系河川における底泥中の有害微量元素の輸送・沈殿特性	A-HW27	流域の水及び物質の輸送と循環－源流域から沿岸域まで－
17	A	山方 優子	京都大学大学院理学研究科	鉄安定同位体を用いた海洋生物の統代謝証	A-OS23	海洋生態系モデリング
18	A	小林 英貴	東京大学大学院理学系研究科大気海洋研究所	南大洋の成層化が氷期の大气中二酸化炭素変動に及ぼす影響の評価	M-IS21	南大洋・南極氷床が駆動する全球気候・生態系変動
19	A	鈴木 克明	東京大学大学院理学系研究科	水月湖堆積物中の河川起源砕屑物フラックスを用いた降水量変動復元手法の開発	M-IS28	東アジア・北西太平洋域高解像度古気候観測網
20	A	黒川 駿介	東京大学大学院理学系研究科	中期中新世女川層に見られるorbital-scaleの堆積リズムとmillennial-scale変動の関係	M-IS28	東アジア・北西太平洋域高解像度古気候観測網
21	H	葉田野 希	信州大学大学院理工学系研究科	中部中新統土岐口陶土層の古土壌における化学組成と粘土鉱物組成	H-CG35	堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動
22	H	Jiang Yao	京都大学大学院理学研究科	Acoustic emissions preceding the stress drops in locally sheared granular materials	H-DS06	Landslides and related phenomena
23	H	平田 康人	京都大学大学院理学研究科	柱状節理の発達した花崗斑岩の皮殻を伴う球状風化過程	H-GM02	Geomorphology
24	H	山田 圭太郎	京都大学大学院理学研究科 Division of Spectral Information Engineering	福井県水月湖で新たに掘削されたSG14コアの層相と対比	H-QR23	ヒト・環境系の時系列ダイナミクス
25	H	Haji Mirza Aghasi Niloofer	Science Department of Geoenvironmental Sciences, University of Tehran	Investigation Between Urban Traffic Accidents and Urban Structures from Spatial Perspective	H-TT09	GIS
26	H	烏田 明典	東京大学大学院理学系	IODP Exp.346日本海第四紀半遠洋性堆積物の明暗層に基づくコア間、サイト間精密対比とその応用	M-IS28	東アジア・北西太平洋域高解像度古気候観測網
27	H	棕本 ひかり	名古屋大学大学院環境学研究科	火葬場の炭酸ヒドロキシバタイトを用いた14C年代測定を試み	U-06	宇宙・太陽から地球表層までのシステム科学的な新展開
28	S	Wong Shu-Kuan	Atmosphere and Ocean Research Institute, The University of Tokyo	Characterizing the biological and microbial community dynamics in the coastal sea surface microlayer	M-IS26	生物地球化学
29	S	大谷 真理	東北大学大学院理学研究科	捕獲岩からんらん岩に記録された間隙流体の形状と組成について	S-CG14	wired vortices in subduction zones, Physical and chemical properties and
30	S	無盡 真弓	東北大学大学院理学研究科	新燃岳2011年噴火噴出物中の石基ナノライトの鉱物学的性質	S-CG58	岩石・鉱物・資源

31	S	伊神 洋平	京都大学大学院理学研究科	珪線石のAl/Si無秩序化と高温相変化	S-CG58	岩石・鉱物・資源
32	S	山内 初希	東京大学地震研究所	融点近傍における多結晶体の弾性・非弾性・粘性	S-CG59	地球惑星科学におけるレオロジーと破壊・摩擦の物理
33	S	竹口 いずみ	金沢大学大学院自然科学研究科	浮力駆動されるクラックの形・伝播様式・速度のパラメータ依存性	S-CG59	地球惑星科学におけるレオロジーと破壊・摩擦の物理
34	S	中谷 貴之	東北大学大学院理学研究科	前弧マントルにおけるかんらん岩の加水反応速度に関する実験的研究	S-CG60	流体と流み込み帯のダイナミクス
35	S	永治 方敬	名古屋大学大学院環境学研究科	S波伝搬経路解析が制約する含水ウェッジマントルの分布とダイナミクス	S-CG60	流体と流み込み帯のダイナミクス
36	S	矢部 優	東京大学大学院理学系研究科	深部低周波微動の潮汐応答性	S-CG62	スロー地震
37	S	河野 尊臣	東北大学大学院理学研究科	南鳥島の溶岩と形成過程	S-CG64	海洋底地球科学
38	S	北原 優	高知大学 大学院 総合人間自然科学研究科	7〜10世紀の日本における考古地磁気強度変動の傾向	S-EM34	地磁気・古地磁気・岩石磁気
39	S	富永 紘平	筑波大学生命環境学群地球学類	株父帯北帯における海山起源石灰岩の定置過程: 関東山地石灰岩を例に	S-GL40	地殻地質と構造発達史
40	S	谷部 功将	東京大学大学院理学系研究科	オリビン多結晶体の合成と高温クリープ実験	S-IT04	Rheology of Earth's Interior
41	S	大角 正直	愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター	鉄合金液体の第一原理熱弾性計算による地球外核組成の制約	S-IT35	地球深部ダイナミクス: プレート・マントル・核の相互作用
42	S	原田 隆史	愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター	MgO格子原子拡散挙動の第一原理シミュレーション	S-IT35	地球深部ダイナミクス: プレート・マントル・核の相互作用
43	S	安本 篤史	京都大学大学院理学研究科	ボヘミア山塊Moldanubian帯Nove Dvory産超高压エクロジャイト中に含まれる4種類のCa角閃石の起源	S-MP08	Micro- to macro-scale deformation: petrologic, mineralogic, geophysical and geochemical checkpoints
44	S	清水 連太郎	早稲田大学大学院創造理工学研究科	変成ダイアモンドのラマンスペクトルにおける放射線損傷の影響とその緩和	S-MP10	ultrahigh-pressure metamorphism -slab fluid and deep mantle dynamics-
45	S	東野 文子	京都大学大学院理学研究科	角閃岩相高温帯における塩水流入に伴うザクロ石一角閃石脈の形成と物質移動	S-MP43	変形岩・変成岩とテクトニクス
46	S	Sun Tianhaozhe	School of Earth and Ocean Sciences, University Of Victoria	Determining slip near trench in the M 9 Tohoku-oki earthquake using bathymetry differences before and after the rupture	S-SS02	Frontier studies on subduction zone megathrust earthquakes and tsunamis
47	S	悪原 岳	東京大学地震研究所	海陸統合観測網を用いたレシーバ関数解析に基づくフィリピン海プレートの流体分布	S-SS02	Frontier studies on subduction zone megathrust earthquakes and tsunamis
48	S	Viens Loic	東京大学地震研究所	Ground Motion Prediction of Finite Rupture Subduction Earthquakes using the Ambient Seismic Field	S-SS26	地震波伝播: 理論と応用
49	S	中村 佳博	新潟大学自然科学研究科	摩擦溶融時のシュードタキライト中の動的な酸化・還元状態について	S-SS29	断層のレオロジーと地震の発生過程
50	S	志水 宏行	東京大学地震研究所	火砕流ダイナミクスに関する数値的研究: 浅水波方程式に基づく2層密度流モデルの開発	S-VC46	火山噴火のダイナミクスと素過程
51	S	松本 恵子	東北大学大学院理学研究科	噴煙や溶岩中への大気取り込みの指標としての磁硫鉄鉱の酸化反応	S-VC46	火山噴火のダイナミクスと素過程
52	S	菅野 洋	東京大学地震研究所	噴火アナログ実験における周期的噴出とノコギリ波状圧力変動	S-VC46	火山噴火のダイナミクスと素過程
53	S	入山 宙	九州大学大学院理学府	1次元準定常的降下堆積プロセスにおける直線的噴煙上昇の影響	S-VC46	火山噴火のダイナミクスと素過程
54	S	石毛 康介	北海道中央部大雪山火山群旭岳火山の形成史とマグマ変	北海道中央部大雪山火山群旭岳火山の形成史とマグマ変	S-VC47	火山・火成活動と長期予測
55	S	関 香織	東京工業大学理工学研究科	温泉水と比抵抗構造から推定される立山地獄谷の熱水系	S-VC49	火山の熱水系
56	B	古川 ひかる	東京大学大学院理学系研究科	初期地球における有機物ヘイズの衝突成長と内部構造進化	B-AO01	Astrobiology: Origins, Evolution, Distribution of Life
57	B	別所 瑞萌	東京薬科大学院生命科学科	祖先生物超好熱菌説の確実さの検証	B-AO01	Astrobiology: Origins, Evolution, Distribution of Life
58	B	田代 貴志	東京大学大学院理学系研究科	カナダ・ラブラドル、サグレック岩体の初期太古代(3.95 Ga)堆積岩中の炭酸塩と炭酸塩の炭素同位体比	B-PT23	地球史解説: 冥王代から現代まで
59	B	原田 真理子	東京大学大学院理学系研究科	ヒメジマシラセーリア抗酸化酵素遺伝子発現量との関連性とシアノバクテリア抗酸化酵素遺伝子発現量との関連性	B-PT26	地球ゲノム学

公益社団法人日本地球惑星科学連合時給規則（案）

2015 年 7 月 18 日制定

（趣旨）

第 1 条 この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合と雇用契約を締結する短時間雇用職員（非常勤）の時給について定めることを目的とする。

（時給）

第 2 条 職員の時給は、職員の職務内容に応じた以下の 3 区分の別表に基づいて、勤務成績、能力及び業務経歴等を考慮して決定する。

- （１） 短時間雇用職員（非常勤）給与表Ⅰ：事務一般にかかる事務局業務
- （２） 短時間雇用職員（非常勤）給与表Ⅱ：専門的知識に基づく事務局業務
- （２） 短時間雇用職員（非常勤）給与表Ⅱ：高度な専門的知識に基づき事務局運営の指導にかかる業務

（初任給）

第 3 条 新たに採用された職員の時給は、学歴、職歴、経験、技能等を勘案し、他の職員との均衡を考慮して、理事会が定める。

（昇給）

第 4 条 職員が、現に受けている号俸を受けるに至ったときから 24 ヶ月を経過し、その間良好な成績で勤務したと認められるとき、昇給させる。

（規則の改廃）

第 5 条 本規則の改廃は、理事会の議を経ることとする。

短時間雇用職員（非常勤）給与表Ⅰ （一般事務業務）

号俸	時給(円)
1	940
2	970
3	1,000
4	1,040
5	1,080
6	1,120

7	1,200
8	1,240
9	1,290
10	1,340
11	1,390
12	1,430
13	1,480
14	1,530
15	1,570
16	1,620
17	1,670
18	1,720
19	1,760
20	1,810
21	1,860

短時間雇用職員給与表Ⅱ
(専門的事務業務)

号俸	時給(円)
1	1,050
2	1,120
3	1,190
4	1,260
5	1,330
6	1,400
7	1,470
8	1,540
9	1,610
10	1,680
11	1,750
12	1,820
13	1,890
14	1,960
15	2,030
16	2,100
17	2,170

18	2,240
19	2,310
20	2,380
21	2,450
22	2,520
23	2,590
24	2,660

短時間雇用職員給与表

Ⅲ

(事務指導業務)

号俸	時給(円)
1	4,520

附則

本規則は、平成 27 年 7 月 18 日から実施する。

平成27年度 共催・協賛・後援等一覧

申請日	承認日	種別	会合名等	主催者	開催期間	会場
6月5日	6月15日	協賛	日本地質学第122年学術大会巡検	日本地質学会 会長 井龍康文	2015年9月10日(木)～15日(火)	長野県を中心に8コース
6月18日	6月24日	協賛	2015年URSI日本電波科学会議	2015年URSI日本電波科学会議 実行委員会 委員長 小林 一哉	2015年9月3日(木)～4日(金)	東京工業大学 大岡山キャンパス
6月26日	7月7日	協賛	女子中高生夏の学校2015～科学・技術・人との出会い～	国立女性教育会館	2017年8月6日(木)～8日(土)	国立女性教育会館
7月2日	7月8日	後援	「沈み込み帯堆積盆地のリソスフェア・ダイナミクス」	東京大学地震研究所	2015年10月5日(月)～2015年10月9日(金)	第一ホテル東京シーフォート

2015/7/15 10:19

平成27年度 サポートレター等一覧

申請日	承認日	種別	件名	申請者
5月13日	5月21日	サポートレター	「連携ネットワーク型共同利用・共同研究拠点」申請にかかるサポートレター	海洋研究開発機構北極環境変動総合研究センター長 河野 健

求人番号

受付年月日 平成27年7月1日

紹介期限日 平成27年9月30日

事業所番号



求人票

(フルタイム)



13010-70656051

求人事業所名

公益社団法人 日本地球惑星科学連合

〒113-0032

東京都文京区教生2-4-16学会センタービル4階

ホームページ <http://www.jpau.org/>
Eメール office@jpau.org

事業所所在地に同じ 転勤の可能性 なし

2 仕事の内容等

一般事務・総務

学会事務局における事務
理事会、社員総会、各委員会等議決の開催手配、資料作成、
運営補助、連絡、各種印刷物の制作・配付、インターネット
管理、学術大会やシンポジウムの開催準備、運営補助、ホームペ
ージ管理を含む内外対応
その他総務関連業務全般

雇用形態 正社員以外
雇用期間 12ヶ月
雇用期間の定めあり
契約社員
契約更新の可能性あり(条件あり)

学歴 必要なし
年齢 必要なし

必要経費 必要なし

必要経費 必要なし

必要経費 必要なし

必要経費 必要なし

必要経費 必要なし

必要経費 必要なし

求人情報提供
公開希望
公開区分
公開期間

3 労働条件等

賃金 (税込)	
a+b	200,000円～210,000円
a 基本給 (月額換算・月平均労働日数 19.8日)	200,000円～210,000円
b 定額給 (月給)	200,000円～210,000円
c その他の手当等	円
手当	円
手当	円
手当	円
手当	円

賃金	円
形態	その他
支払日	毎月15日(翌月払い)
通勤手当	実費(上限なし) マイカー通勤 駐車場なし
昇給	なし
賞与	なし
加入保険等	雇用 労災 健康 厚生 年金 退職金制度 なし

就業時間	(1) 09:30～17:15
休日	土日祝
休日	週休二日制 毎週 10日
休日	6ヶ月経過後の年次有給休暇 10日

就業時間	(1) 09:30～17:15
休日	土日祝
休日	週休二日制 毎週 10日
休日	6ヶ月経過後の年次有給休暇 10日

就業時間	(1) 09:30～17:15
休日	土日祝
休日	週休二日制 毎週 10日
休日	6ヶ月経過後の年次有給休暇 10日

昇給については実績による。

求人条件特記事項

昇給については実績による。

求人条件特記事項

求人条件特記事項

就業地住所

東京都文京区

就業分野

学術・文化団体

就業分野

学術・文化団体

就業分野

学術・文化団体

就業分野

学術・文化団体

就業分野

学術・文化団体

就業分野

学術・文化団体

就業分野

学術・文化団体

就業分野

学術・文化団体

就業分野

学術・文化団体

就業分野

学術・文化団体

就業分野

学術・文化団体

就業分野

学術・文化団体

就業分野

学術・文化団体

就業分野

学術・文化団体

就業分野

学術・文化団体

就業分野

学術・文化団体

2015 年連合大会報告

【2015 年日本地球惑星科学連合大会】

会期：2015 年 5 月 24 日(日)～28 日(木) 5 日間

会場：幕張メッセ国際会議場，アパホテル&リゾート 東京ベイ幕張

主催：日本地球惑星科学連合

後援：45 団体 協賛：日本サンゴ礁学会，日本高圧力学会，日本天文学会

【2015 年大会開催セッション数】

(括弧)の中は国際セッション数

	2015 年大会	2014 年	2013 年	2012 年	2011 年
ユニオン(U)	7 (2)	10 (2)	7 (2)	7 (2)	9 (5)
パブリック(P)	5 (0)	7 (1)	5 (0)	4 (0)	4 (0)
宇宙惑星科学(P)	23 (12)	29 (11)	23 (10)	26 (13)	22 (8)
大気水圏科学(A)	22 (9)	24 (7)	26 (6)	22 (5)	20 (4)
地球人間圏科学(H)	24 (8)	25 (8)	22 (8)	20 (8)	22 (6)
固体地球科学(S)	62 (16)	58 (10)	58 (11)	60 (6)	61 (11)
地球生命科学(B)	10 (2)	9 (2)	10 (2)	10 (2)	10 (3)
教育・アウトリーチ(G)	5 (1)	5 (1)	4 (0)	5 (0)	5 (0)
領域外・複数領域(M)	31 (5)	26 (1)	25 (3)	23 (6)	21 (4)
合計	189(55)	193(43)	180(42)	174 (42)	174 (41)

【2015 年大会投稿数】

- ・ 発表論文数：4037 件 (2014 年 3806 件，2013 年 3980 件，2012 年 3876 件)
- ・ 口頭発表 2545 件 (2014 年 2428 件，2013 年 2226 件，2012 年 1975 件)
- ・ ポスター 1492 件 (2014 年 1378 件，2013 年 1754 件，2012 年 1901 件)
- ※ポスターは高校生セッションの 77 件を含む

■参加者数

参加者数：6689 名 (2014 年 7046 名，2013 年 6824 名，2012 年 7318 名)

- ・ 事前参加登録者数：4106 名
 - 全日程 3437 1 日券 669
 - 一般 2820，小中高教員 35，大学院生 1074，シニア 75，学部生 91，高校生 11
- ・ 当日参加登録者数：1165 名
 - 全日程 582 1 日券 583
 - 一般 507，小中高教員 8，大学院生 144，シニア 56，学部生 434，高校生 16
- ・ 同伴者 26 名
- ・ 総合案内来場者数：1392 名
 - 一般 203 名，小中高教員 33 名，大学院生 4 名，シニア 4 名，学部生以下 227 名，
 - 高校生発表 177 名，ジオパーク 121 名，プレス 84 名，会合参加者 96 名，
 - 出展関係者 355 名，中学生アウトリーチイベント参加者 88 名

■出展関係

- ・ 団体展示：65 ブース (2014 年 80，2013 年 63，2012 年 43)
- ※2014 年は大学インフォメーションパネルを含む数
- ・ 大学インフォメーションパネル：11 ブース (2013 年 11，2012 年 13)
- ・ 書籍出版 (関連商品)：26 ブース (2014 年 27，2013 年 25，2012 年 29)
- ・ パンフレットデスク：7 ブース (2014 年 7，2013 年 10，2012 年 8)
- ・ 学協会エリア 個別デスク：10 ブース (2014 年 10，2013 年 9，2012 年 10)

■その他

- ・ 会期中開催会合数：95 (学協会総会等関連：45，連合関連：18，一般：32)
- ・ アルバイト：のべ 355 名

セッションID	タイトル	口頭	ポスター	合計
ユニオンセッション				
U-01	Geoscience Ahead	10		10
U-02	Science Landscape of Japan with NASA Space Missions	7		7
U-03	日本地球惑星科学連合と学術出版の将来	6		6
U-04	地球惑星生命フロンティア開拓	11		11
U-05	Future Earth - 持続可能な地球へ向けた統合的研究	18		18
U-06	宇宙・太陽から地球表層までのシームレスな科学の新展開	21	24	45
U-07	連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？	20		20
ユニオン合計		93	24	117
パブリックセッション				
O-01	ジオパークへ行こう	9	43	52
O-02	地球・惑星科学トップセミナー	3		3
O-03	高校生セッション		77	77
O-04	研究者の多様なキャリア形成を考える	3		3
O-05	Future Earth構想と地学教育および地理教育との連携を考える	6		6
パブリック合計		21	120	141
宇宙惑星科学				
P-PS01	Outer Solar System Exploration Today, and Tomorrow	23	11	34
P-PS02	Enabling Access to Solar and Planetary Resources through the Virtual Observatory	4		4
P-PS03	Rotation, inner dynamics and variations of natural processes on the Earth, the Moon and Mars.	7		7
P-PS04	International Collaboration in Planetary and Space Sciences: Small Projects, Big Missions, Everything	14	6	20
P-PS05	Mars	16	5	21
P-PS21	惑星科学	38	21	59
P-PS22	太陽系における惑星物質の形成と進化	26	16	42
P-PS23	月の科学と探査	22	12	34
P-PS24	宇宙における物質の形成と進化	16	4	20
P-EM06	Mesosphere-Thermosphere-Ionosphere Coupling in the Earth's Atmosphere	23	11	34
P-EM07	Space Weather, Space Climate, and VarSITI	43	11	54
P-EM08	Progress in Physics of the Inner Magnetosphere	18	5	23
P-EM09	Dynamics in magnetosphere and ionosphere	24	10	34
P-EM10	Study of coupling processes in solar-terrestrial system	29	5	34
P-EM11	New frontier: Observations of the middle and upper atmospheres from ISS	16	1	17
P-EM12	Ionospheric and thermospheric disturbances during recurrent magnetic storms	2		2
P-EM25	太陽圏・惑星間空間	12	6	18
P-EM26	宇宙プラズマ理論・シミュレーション	19	11	30
P-EM27	大気圏・電離圏	21	28	49
P-EM28	磁気圏-電離圏ダイナミクス	17	17	34
P-CG30	太陽系小天体研究の新展開	21	8	29
P-CG31	宇宙科学・探査の将来計画と関連する機器・技術の現状と展望	23	6	29
P-CG32	惑星大気圏・電磁圏	17	13	30
宇宙惑星合計		451	207	658
大気水圏				
A-AS01	Advances in Atmospheric Remote Sensing Techniques	8	3	11
A-AS02	Ultra-high precision mesoscale weather prediction by high performance computing	14	1	15
A-AS03	Understanding extremes: high-resolution models, dense observations and the emergent role of big data	4		4
A-AS21	大気化学	29	24	53
A-AS22	ミクロスケール気象現象解明にむけた稠密観測・予報の新展開	18	6	24
A-OS23	海洋生態系モデリング	13	2	15
A-HW24	同位体水文学2015	11	7	18
A-HW25	都市域の地下水・環境地質	6	5	11

A-HW26	水循環・水環境	6	9	15
A-HW27	流域の水及び物質の輸送と循環ー源流域から沿岸域までー	26	9	35
A-CC28	雪氷学	15	6	21
A-CC29	アイスコアと古環境変動	13	3	16
A-GE04	Subsurface Mass Transport and Environmental Assessment	8	15	23
A-CG05	The role of salinity in Indo-Pacific ocean and climate	10		10
A-CG06	Asian monsoon hydroclimate	5	1	6
A-CG07	Continental-Oceanic Mutual Interaction: Global-scale Material Circulation through River Runoff	13		13
A-CG08	Mountainous Catchment Storage Estimation for water resource management and flood risk reduction purposes	7		7
A-CG09	Satellite Earth Environment Observation	35	7	42
A-CG30	陸域生態系における水・炭素・窒素などの循環に関する研究	21	8	29
A-CG31	北極域の科学	19	9	28
A-CG32	熱帯におけるマルチスケール大気海洋相互作用現象	19	3	22
A-CG33	陸海相互作用ー沿岸生態系に果たす水・物質循環の役割ー	13	6	19
大気水圏合計		313	124	437
人間圏				
H-GG01	International comparison of landscape appreciation	16	5	21
H-GG21	自然資源・環境の利用と管理	9	3	12
H-GM02	Geomorphology	7	5	12
H-GM22	地形	7	10	17
H-QR23	ヒトー環境系の時系列ダイナミクス	9	9	18
H-SC03	Implementing Human Dimensions Research for the Earth' Future	8		8
H-SC05	Tsunami and other Coastal Natural Hazards;is there enough information and awareness in rural and remote areas?	9	1	10
H-SC24	人間環境と災害リスク	5	10	15
H-DS06	Landslides and related phenomena	11	8	19
H-DS07	Natural hazards impacts on the society, economics and technological systems	5	3	8
H-DS25	湿潤変動帯の地質災害とその前兆	9	15	24
H-DS26	海底地すべりとその関連現象	2	1	3
H-DS27	津波とその予測	24	16	40
H-RE28	地球温暖化防止と地学(CO2地中貯留・有効利用,地球工学)	21	8	29
H-TT08	Geoscientific applications of high-definition topography and geophysical measurements	4	3	7
H-TT09	GIS	16	3	19
H-TT29	環境リモートセンシング	12	4	16
H-TT30	UAVが拓く新しい世界	6	6	12
H-TT31	環境トレーサビリティ手法の新展開	11	21	32
H-TT32	地理情報システム	9		9
H-TT33	未来の地球環境と社会のための新しい情報基盤を構想する	7	3	10
H-CG34	原子力と地球惑星科学	5	2	7
H-CG35	堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動	15	7	22
H-CG36	惑星と閉鎖生態系における生物のシステムー微生物からヒトまで	5	5	10
人間圏合計		232	148	380
固体地球				
S-GD21	測地学一般	7	3	10
S-GD22	GGOS(全球統合測地観測システム)	13	1	14
S-GD23	重力・ジオイド	12	3	15
S-SS01	Exploring our limits in understanding earthquakes and improving our knowledgeーCSEP Experiment in Japanー	12	3	15
S-SS02	Frontier studies on subduction zone megathrust earthquakes and tsunamis	25	10	35
S-SS24	リアルタイム地震情報システムの発展と利活用	9	6	15
S-SS25	強震動・地震災害	23	20	43
S-SS26	地震波伝播:理論と応用	24	15	39
S-SS27	地震予知・予測	9	6	15
S-SS28	活断層と古地震	30	26	56
S-SS29	断層のレオロジーと地震の発生過程	15	16	31

S-SS30	地震発生の物理・震源過程	29	15	44
S-SS31	地殻変動	11	18	29
S-SS32	地震活動	10	13	23
S-SS66	緊急セッション ネパール地震		18	18
S-EM33	電気伝導度・地殻活動電磁気学	12	13	25
S-EM34	地磁気・古地磁気・岩石磁気	21	13	34
S-IT03	Structure and dynamics of Earth and Planetary deep interiors	25	7	32
S-IT04	Rheology of Earth's Interior	17	5	22
S-IT05	Hard-Rock Drilling: Oceanic Lithosphere to Island Arc Formation and Beyond	18	5	23
S-IT06	Early Earth – from accumulation to formation –	26	7	33
S-IT07	New constraints on the tectonic evolution of Northeast Asia	14	3	17
S-IT35	地球深部ダイナミクス: プレート・マントル・核の相互作用	12	12	24
S-IT36	地球深部の能動的常時観測とシミュレーションの技術展望	7	1	8
S-GL37	プレート収束境界における堆積盆形成テクトニクスの新たな展望	6	4	10
S-GL38	上総層群における下部－中部更新統境界GSSP	9	5	14
S-GL39	地球年代学・同位体地球科学	13	6	19
S-GL40	地域地質と構造発達史	5	15	20
S-RD41	資源地質学の展開: 鉱化流体の起源と進化	8	5	13
S-MP10	ultrahigh-pressure metamorphism –slab fluid and deep mantle dynamics–	8	8	16
S-MP42	鉱物の物理化学	12	15	27
S-MP43	変形岩・変成岩とテクトニクス	11	16	27
S-MP44	メルト－延性－脆性岩体のダイナミクスとエネルギー・システム	2	4	6
S-VC11	Volatiles and volcanoes: the role of volatiles in determining how and when volcanoes erupt	12	3	15
S-VC12	Multidisciplinary volcano monitoring	13	6	19
S-VC45	活動的火山	29	41	70
S-VC46	火山噴火のダイナミクスと素過程	17	19	36
S-VC47	火山・火成活動と長期予測	18	19	37
S-VC48	火山防災の基礎と応用	9	4	13
S-VC49	火山の熱水系	9	4	13
S-GC50	固体地球化学・惑星化学	13	3	16
S-GC51	希ガス同位体地球惑星科学の最前線	9	5	14
S-TT13	Recent Advances in Exploration Geophysics (RAEG2015)	23	5	28
S-TT52	空中からの地球計測とモニタリング	6	4	10
S-TT53	地震観測・処理システム	6	9	15
S-TT54	合成開口レーダー	13	8	21
S-TT55	ハイパフォーマンスコンピューティングが拓く固体地球科学の未来	6	1	7
S-CG14	Mixed volatiles in subduction zones; Physical and chemical properties and processes	12	1	13
S-CG15	Detection of microcracks prior to rupture and layered interfaces by the seismoelectrical method	7	2	9
S-CG16	Deep Carbon Cycle	13		13
S-CG56	日本の原子力発電と地球科学: 地震・火山科学の限界を踏まえて	8	5	13
S-CG57	変動帯の構造・進化とダイナミクス	35	36	71
S-CG58	岩石・鉱物・資源	15	13	28
S-CG59	地球惑星科学におけるレオロジーと破壊・摩擦の物理	14	10	24
S-CG60	流体と沈み込み帯のダイナミクス	18	8	26
S-CG61	地殻流体と地殻変動	9	5	14
S-CG62	スロー地震	18	17	35
S-CG63	雪氷圏地震学 – 地球表層環境変動の新指標 –	6	1	7
S-CG64	海洋底地球科学	43	19	62
S-CG65	兵庫県南部地震から20年: 活断層と強震動に関する研究の進展	12	2	14
S-MP08	Micro- to macro-scale deformation: petrologic, mineralogic, geophysical and geochemical checkpoints	7	1	8
S-MP09	Supercontinents and Crustal Evolution	10	10	20
固体地球合計		865	578	1443
地球生命				

B-AO01	Astrobiology: Origins, Evolution, Distribution of Life	17	11	28
B-BG21	熱帯一亜熱帯沿岸生態系における物質循環	6	3	9
B-GM22	地球惑星科学と微生物生態学の接点	9	4	13
B-PT03	Biocalcification and the Geochemistry of Proxies –Field ecology, Laboratory culture and Paleo	15	3	18
B-PT23	地球史解説: 冥王代から現代まで	27	4	31
B-PT24	化学合成生態系の進化をめぐる	6	4	10
B-PT25	地球生命史	6	6	12
B-PT26	地球ゲノム学	6	6	12
B-PT27	原生代末／顕生代生物多様性変遷: 絶滅と多様化	13	4	17
B-CG28	生命-水-鉱物-大気相互作用	14	15	29
地球生命合計		119	60	179
教育・アウトリーチ				
G-01	Education of Earth science in tomorrow classrooms		6	6
G-02	総合的防災教育	7	7	14
G-03	地球惑星科学のアウトリーチ	12	7	19
G-04	小・中・高等学校の地球惑星科学教育	8	5	13
G-05	学部生向けの教育	1	1	2
教育・アウトリーチ合計		28	26	54
領域外・複合				
M-IS01	Geoconservation and sustainable development	7	5	12
M-IS02	Interdisciplinary studies on pre-earthquake processes	13	5	18
M-IS03	Exploring the role of soil in earth science: ecological/biogeochemical linkage and beyond	18	12	30
M-IS21	南大洋・南極氷床が駆動する全球気候・生態系変動	17	6	23
M-IS22	地球流体力学: 地球惑星現象への分野横断的アプローチ	13	1	14
M-IS23	ジオパーク	12	7	19
M-IS24	ガスハイドレートと地球環境・資源科学	24	11	35
M-IS25	津波堆積物	11	20	31
M-IS26	生物地球化学	27	16	43
M-IS27	地震・火山等の地殻活動に伴う地圏・大気圏・電離圏電磁現象	9	4	13
M-IS28	東アジア-北西太平洋域高解像度古気候観測網	23	1	24
M-IS29	大気電気学	20	3	23
M-IS30	遠洋域の進化	12	5	17
M-IS31	結晶の成長と溶解における界面・ナノ現象	11	4	15
M-IS32	地球掘削科学	20	12	32
M-IS33	2011年巨大地震・津波以後の東北沖海洋科学	16	9	25
M-IS34	古気候・古海洋変動	23	21	44
M-IS35	この星は、なぜ地球なのか？ -水の役割-	20	4	24
M-IS46	海底マンガン鉱床の生成・環境・起源	5	6	11
M-GI36	地球惑星科学におけるオープンサイエンスデータをめざして	11		11
M-GI37	情報地球惑星科学と大量データ処理	23	5	28
M-AG38	福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態	24	11	35
M-SD39	宇宙食と宇宙農業	2	4	6
M-TT05	New phase of GPS/GNSS application as an integrated earth observation system	13	4	17
M-TT06	Development and utilization of micro-satellite under international collaboration	6	3	9
M-TT40	地球惑星科学データ解析の新展開: データ駆動型アプローチ	16	2	18
M-TT41	インフラサウンド及び関連波動が繋ぐ多圏融合地球物理学の新描像	6	4	10
M-TT42	地球惑星科学における地図・空間表現		9	9
M-TT43	ソーシャルメディアと地球惑星科学	2	4	6
M-TT44	地球化学の最前線: 未来の地球化学を展望して	9	3	12
M-ZZ45	地球科学の科学史・科学哲学・科学技術社会論	9	3	12
領域外・複合合計		422	204	626

2015年連合大会 参加者数 (2015年6月4日集計)

■表1 登録区分別参加者数

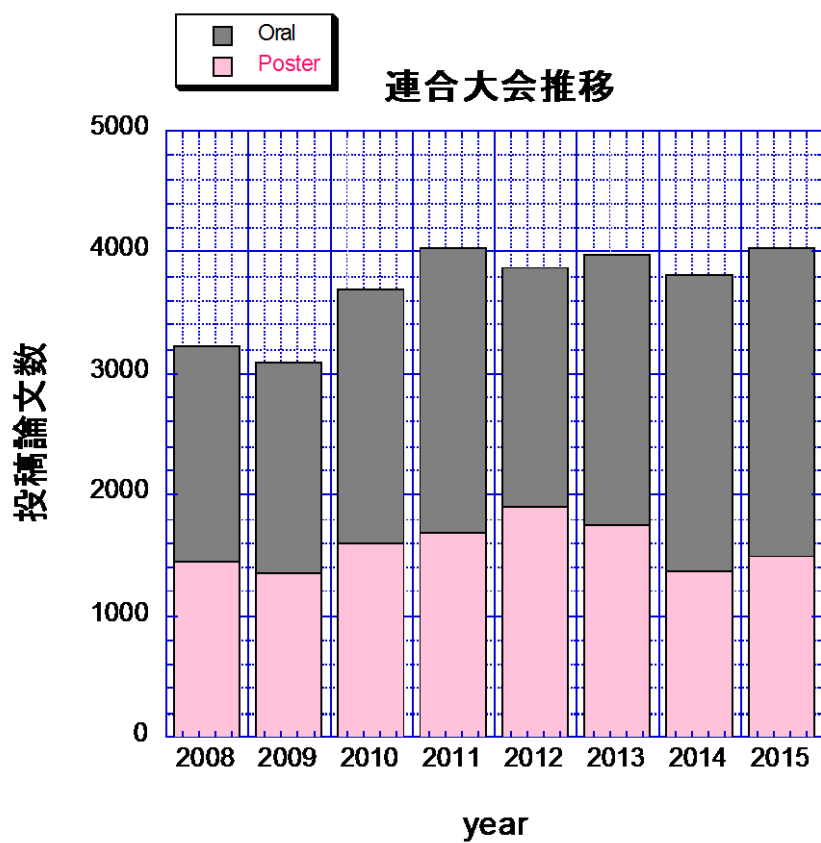
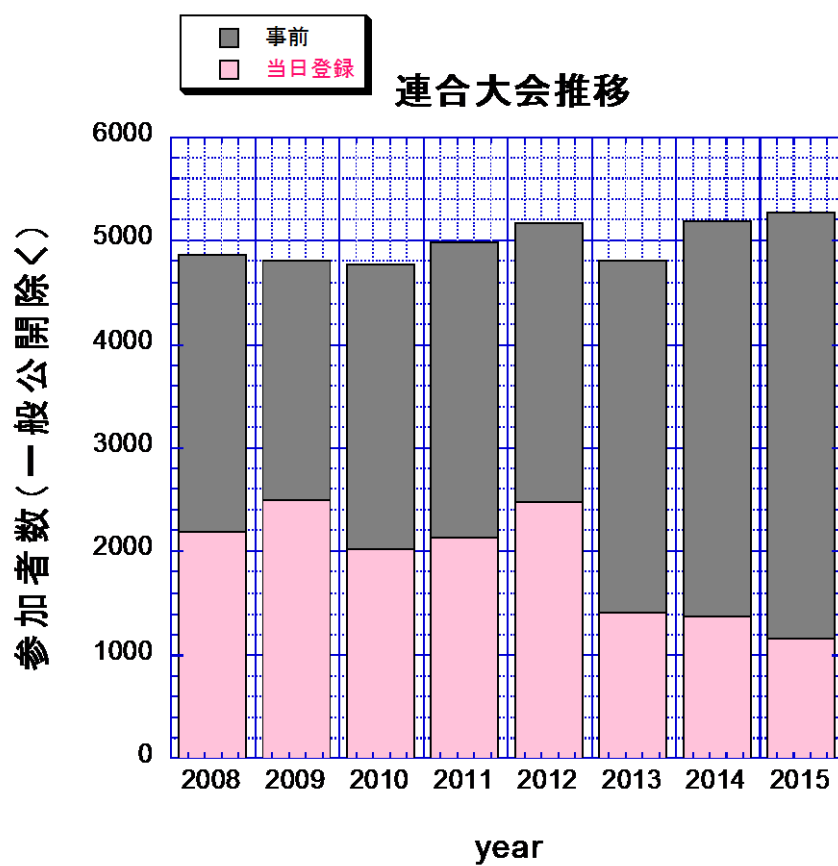
事前当日	会員種別	登録区分	身分	05/23	05/24	05/25	05/26	05/27	05/28	合計
事前登録	会員	一日	一般	2	99	92	70	93	32	388
			小中高教員	0	12	0	2	1	0	15
			大学院生	0	45	39	29	40	15	168
			学部生	0	5	2	0	1	1	9
			高校生以下	0	3	0	0	0	0	3
			シニア	0	1	2	0	0	0	3
		全日	一般	26	1210	500	238	183	21	2178
			小中高教員	1	14	2	0	1	0	18
			大学院生	2	499	187	109	71	5	873
			学部生	0	30	18	11	9	1	69
			高校生以下	5	1	0	0	0	0	6
			シニア	1	33	17	9	7	1	68
	非会員	一日	一般	0	19	10	13	14	11	67
			小中高教員	0	0	0	0	0	1	1
			大学院生	0	5	2	0	2	0	9
			学部生	0	5	0	0	0	0	5
			高校生以下	0	0	0	0	0	0	0
			シニア	0	1	0	0	0	0	1
		全日	一般	4	67	51	30	33	2	187
			小中高教員	0	1	0	0	0	0	1
			大学院生	0	10	4	8	2	0	24
			学部生	0	7	0	0	1	0	8
			高校生以下	2	0	0	0	0	0	2
			シニア	0	2	1	0	0	0	3
事前登録受付来場				43	2069	927	519	458	90	4106
当日参加登録	会員	一日	一般	0	37	34	18	39	27	155
			小中高教員	0	5	0	0	1	0	6
			大学院生	0	8	9	7	7	10	41
			学部生	0	1	1	0	0	0	2
			高校生以下	0	0	0	0	0	0	0
			シニア	0	0	0	0	1	0	1
		全日	一般	0	73	62	28	22	0	185
			小中高教員	0	1	0	0	0	0	1
			大学院生	0	27	20	4	7	0	58
			学部生	0	5	3	3	1	0	12
			高校生以下	0	0	0	0	0	0	0
			シニア	0	11	2	1	1	0	15
	非会員	一日	一般	0	13	17	14	21	15	80
			小中高教員	0	1	0	0	0	0	1
			大学院生	0	1	7	6	3	4	21
			学部生	0	78	31	31	51	59	250
			高校生以下	0	11	2	0	0	0	13
			シニア	0	8	1	1	3	0	13
		全日	一般	0	33	27	14	13	0	87
			小中高教員	0	0	0	0	0	0	0
			大学院生	0	14	4	4	2	0	24
			学部生	0	72	38	32	28	0	170
			高校生以下	0	1	0	2	0	0	3
			シニア	0	16	3	5	3	0	27
当日登録受付来場小計				0	416	261	170	203	115	1165
一般公開	一般	0	203	0	0	0	0	203		
	小中高教員	0	33	0	0	0	0	33		
	大学院生	0	4	0	0	0	0	4		
	学部生	0	35	0	0	0	0	35		
	高校生以下	0	192	0	0	0	0	192		
	シニア	0	4	0	0	0	0	4		
	高校生発表	9	168	0	0	0	0	177		
一般公開来場小計				11	758	0	0	0	0	769
その他	中学生	0	88	0	0	0	0	88		
	同伴	0	8	6	8	0	4	26		
	出展者	16	249	51	27	9	3	355		
	会合	0	23	19	38	15	1	96		
	プレス	0	25	15	13	23	8	84		
「その他」来場小計				16	393	91	86	47	16	649
2015年大会 来場者数総計				70	3636	1279	775	708	221	6689

■表2 有料/無料別参加者数

	05/23	05/24	05/25	05/26	05/27	05/28	合計
有料参加者	35	2194	1067	594	555	143	4588
無料参加者	35	1442	212	181	153	78	2101
合計	70	3636	1279	775	708	221	6689

■表3 一日/全日別参加者数

	05/23	05/24	05/25	05/26	05/27	05/28	合計
一日	13	1260	289	250	315	188	2315
全日	57	2376	990	525	393	33	4374
合計	70	3636	1279	775	708	221	6689



連合大会年別＜海外参加者＞数

	2011	2012	2013	2014	2015
外国人海外在住 (a)	72	126	167	127	200
外国人国内在住 (b)	198	204	188	203	117
日本人海外在住 (c)	16	26	19	21	24
外国人合計 (a+b)	270	330	355	330	317
海外在住合計 (a+c)	88	152	186	148	224
総合計 (a+b+c)	286	356	374	351	341
参考:大会参加者数	5809	7318	6669	7046	6689

2015 年連合大会 主な開催行事 (通常セッション以外)

■ユニオンセッション

- U-01 「Geoscience Ahead」 26 日 (火) 13:15~18:45 国際会議室
U-02 「Science Landscape of Japan with NASA Space Missions」 26 日 (火) 09:00~12:45 国際会議室
U-03 「日本地球惑星科学連合と学術出版の将来」 27 日 (水) 14:15~16:00 国際会議室
U-04 「地球惑星生命フロンティア開拓」 27 日 (水) 09:00~16:00 国際会議室 (14:15~16:00 は201A)
U-05 「Future Earth - 持続可能な地球へ向けた統合的研究」 25 日 (月) 09:00~18:00 103 号室
U-06 「宇宙・太陽から地球表層までのシームレスな科学の新展開」 24 日 (日) 09:00~18:00 105 号室
U-07 「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？」 28 日 (木) 09:00~18:00 103 号室

■パブリックセッション 5 月 24 日 (日)

- O-01 「ジオパークへ行こう」
O-02 「地球惑星科学トップセミナー」
高荻 縁 (東京大学大気海洋研究所) 「衛星搭載降水レーダ観測がもたらした新しい降水科学 - TRMM から GPM へ」
唐戸 俊一郎 (イエール大学) 「地球、惑星内部の水」
渡邊 誠一郎 (名古屋大学) 「はやぶさ 2 のサイエンスと太陽系の水」
O-03 「高校生によるポスター発表」
O-04 「研究者の多様なキャリア形成を考える」
O-05 「Future Earth 構想と地学教育および地理教育との連携を考える」

■スペシャルレクチャー

- 24 日 (日) 沖 大幹 (東京大学生産技術研究所) 「人間-地球系のグローバルな水循環研究」
25 日 (月) David Rubie (University of Bayreuth)
「Accretion and Early Differentiation of the Terrestrial Planets」
27 日 (水) 鈴木 淳 (産業技術総合研究所) 「サンゴ、サンゴ礁と地球環境 - 生物学と地球科学の連携研究 -」
28 日 (木) 片岡龍峰 (国立極地研究所) 「オーロラ研究の新展開」

■講習会

- 「ジオパークの専門員ってどんな仕事？」 主催：日本ジオパークネット 24 日 (日)
「英語プレゼンテーション・スキルアップセミナー」 主催：株式会社フォルテ 25 日 (月)
「論文投稿ワークショップ - 論文構成法と査読プロセスを理解しよう」 主催：ワイリー・ジャパン株式会社 25 日 (月)
「My JpGU セミナー」 主催：日本地球惑星科学連合 情報システム委員会 5 月 25, 27, 28 日開催
「キャリアパスセミナー - いま省庁や民間企業で求められる火山専門家人材とは？」 主催：日本火山学会 5 月 27 日

■アウトリーチ企画

- 中学生のためのハイパーウォールプレゼンテーション 24 日 (日) ハイパーウォール講演、アクティビティ (30 分×4)
NASA 及び JAXA 合同企画 協力：千葉市教育委員会、千葉県教育委員会、千葉国際コンベンションビューロー

■その他企画

- 展示企画 (一般展示、大学展示、書籍・関連商品展示、学協会デスク、パンフレット展示)
学協会インフォメーションコーナー
プレミアムブックマーケット

■会議

- 学協会長会議 27 日 (水) 13:00~14:00 302 号室
定時社員総会 27 日 (水) 16:15~17:15 国際会議室

■式典

- 地球惑星科学振興西田賞授賞式 27 日 (水) 17:30~18:00 国際会議室
日本地球惑星科学連合フェロー授賞式 27 日 (水) 18:00~18:30 国際会議室

■懇親会、交流会

- Reception (Buffet Party) 26 日 (火) 18:45~20:00 国際会議室
フェロー懇親会 27 日 (水) 18:30~20:30 106 号室
全体懇親会 27 日 (水) 19:45~21:30 幕張メッセオープンスペース
International Mixer Luncheon 25 日 (月) 13:00~14:00

2015年連合大会 高校生ポスター発表 審査結果 (全77件)

受賞	高校名	発表タイトル
最優秀賞	海城中学高等学校	新宿区立おとめ山公園周辺の地下水の変動把握および涵養域の推定
優秀賞	静岡県立磐田南高等学校	磐田市遠州灘鮫島海岸で発見されたガーネットサンドに含まれる磁鉄鉱の起源
優秀賞	海城中学高等学校	エアロゾルが夜空の明るさに及ぼす影響
優秀賞	兵庫県立加古川東高等学校	加古川流域の流紋岩に見られる円構造の成因
奨励賞	兵庫県立西脇高等学校	兵庫県南部地震の余震による地盤変動と宅地整備の提言
奨励賞	東京学芸大学附属高等学校	破片化したヤスリツノガイ化石の体サイズ復元
奨励賞	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	館山湾から産出した有孔虫化石による海洋環境の考察
奨励賞	奈良県立青翔高等学校	2つの系外惑星のトランジット観測
奨励賞	群馬県立前橋女子高等学校	暗順応による星空の見え方の変化
奨励賞	埼玉県立所沢高等学校	霜柱の成長に関する実験的研究
奨励賞	静岡県立磐田南高等学校	静岡県太田川低地における歴史地震による津波遡上範囲の推定
奨励賞	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校	Is it really aurora? ～宮崎で観測された光の謎を解く～
奨励賞	滝高等学校	視程と大気汚染物質の関係
奨励賞	東筑紫学園高等学校	夜空の明るさについて 2002～2015
奨励賞	岡山県立津山高等学校	津山周辺における新第三紀海成層の研究
奨励賞	海城中学高等学校	裸眼及びSQMによる夜空の明るさ観測の比較
佳作	群馬県立太田女子高等学校	群馬県板倉コアの介形虫化石と有孔虫化石
佳作	群馬県立太田女子高等学校	微化石の黄鉄鉱化について
佳作	慶應義塾高等学校	富山県高岡市の頭川層(鮮新世)産Swiftopecten属化石における種分化の検討
佳作	私立本郷高校	三葉虫の濾過採食機能についての検証
佳作	兵庫県立西脇高等学校	流紋岩質凝灰岩に着目した兵庫県南部の形成過程
佳作	東京都立戸山高等学校	動くゲリラ豪雨～自作ツールでゲリラ豪雨の動きの特徴を掴んだ～
佳作	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	ピンホール式プラネタリウム投影機の実作
佳作	福島県立磐城高等学校	音のスペクトル解析による鳴き砂の判定
佳作	福島県立磐城高等学校	鳴き砂海岸の異なる地点における鳴き方の違い
佳作	福島県立磐城高等学校	防波堤の形状による減災効果の違い
佳作	兵庫県立加古川東高等学校	凝灰岩の性質の相違によるカルデラ湖形成の推定
佳作	島根県立吉賀高等学校	絶滅危惧種ヒメバカモを救え
佳作	群馬県立前橋女子高等学校	虹の形の違い
佳作	群馬県立前橋女子高等学校	伝統的セタライトダウンの普及と科学的評価
佳作	長野県屋代高等学校	雨粒を究めよう！～雨滴粒径分布の調査～
佳作	滋賀県立米原高等学校	伊吹および鈴鹿山系に分布する石灰岩について
佳作	愛知県立一宮高等学校	皆既月食による本影中のRVB光量分布
佳作	北海道札幌開成高等学校	目指せ！第2のIBC(アイスボックス熱量計)！
佳作	北海道札幌開成高等学校	有珠山の過去へタイムスリップ
佳作	宮崎県立宮崎北高等学校	モデルを用いた災害予測地図の検証実験
佳作	山梨県立日川高等学校	冬の甲府盆地に出現する霧の発生と消滅
努力賞	栄東高等学校	埼玉県さいたま市とその周辺に残る1923年関東地震に関する石碑の継続調査
努力賞	栄東高等学校	都市河川・芝川の現状の考察と改善に向けた提案
努力賞	福井県立藤島高等学校	福井地震断層の探究Ⅲ
努力賞	佐野日本大学高等学校	塩原湖成層のケイソウの変化
努力賞	群馬県立太田女子高等学校	千葉県柏市産ザトウクジラ化石産出層の微化石
努力賞	東京都立戸山高等学校	ヒートアイランド現象のゲリラ豪雨への影響
努力賞	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	地形モデルを用いた津波による水位上昇被害の推測
努力賞	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	地震による、構造の異なる建物の揺れ方
努力賞	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	たたら製鉄の操業と生成物の分析
努力賞	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	大磯丘陵の関東ローム層と房総半島沖コア中のテフラの比較
努力賞	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	ペルセウス座流星群とふたご座流星群の観測
努力賞	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	SQMで見る横浜の明るさ
努力賞	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	SSPSにおける集光型太陽光発電の効率化
努力賞	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	衝突銀河の分布図
努力賞	千葉県立長生高等学校	八岡海岸に見られる斑れい岩のモード組成と被度法による解析
努力賞	千葉県立長生高等学校	外房の海岸浸食と砂の成分について
努力賞	大阪府立堺東高等学校	雨水には個性があった！ー雨水の化学組成と気象条件についての研究ー
努力賞	福島県立磐城高等学校	自作電波望遠鏡を用いた太陽電波観測
努力賞	福島県立磐城高等学校	いわき市の河川の水質調査
努力賞	福島県立磐城高等学校	地上における星の明るさの変化
努力賞	山梨県立吉田高等学校 湘南白百合学園高等学校 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	多摩川における放射性同位元素の堆積調査
努力賞	茨城県立日立第一高等学校	天気の結晶生成と気象条件
努力賞	奈良県立青翔高等学校	分光観測による3彗星の比較
努力賞	兵庫県立豊岡高等学校	「地質学的特徴と人々の暮らしとの関係についての研究」
努力賞	慶應義塾志木高等学校	都市環境が流星電波観測に与える影響
努力賞	大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎	ばね・磁石並列モデルを用いた運動型地震発生モデル実験
努力賞	長野県屋代高等学校	Yosemite ValleyのMerced River河川中の金属イオン濃度の分析-Ver.4
努力賞	鳥取県立鳥取東高等学校	鳴砂の研究②ー鳥取砂丘の砂を鳴らそうー
努力賞	静岡県立磐田南高等学校	綿を伴う高高度発光現象エルプスーエルプスに伴う綿構造と電離圏擾乱との関係 その2ー
努力賞	京都府立洛東高等学校	黒点の大きさと磁場の強さ
努力賞	東筑紫学園高等学校	北九州 平尾台カルスト 広谷湿原 1994～ + ラムサール条約
努力賞	大阪府立春日丘高等学校 定時制の課程	反磁性/常磁性磁化率をはかる ～3力のつりあいと永久磁石を用いた測定法の開発～
努力賞	京都府立嵯峨野高等学校	嵯峨野高校校有林の有する多面的機能 ー微地形からみた土壌量と土壌呼吸 量の推定ー
努力賞	滋賀県立米原高等学校	太陽フレアの発生する黒点群について
努力賞	県立浦和高等学校	月食の分光観測～スペクトルに見られる地球大気の吸収と散乱～
努力賞	山梨県立日川高等学校	甲府盆地東部・笛吹川流域の断層調査
努力賞	長野県諏訪清陵高等学校	津波発散型堤防の可能性
努力賞	長野県諏訪清陵高等学校	高高度発光現象スプライト(4)～落雷電波受信システムの製作～
努力賞	東京都立立川高等学校	70年に及ぶ黒点観測の成果
努力賞	東京都立立川高等学校	70年間の気象観測データの解析

2015年大会実績

会場	部屋数		部屋内訳
	5日間	1日	
メッセ1F	8		101A(80㎡), 101B(80㎡), 102A(139㎡), 102B(139㎡), 103(156㎡), 104(156㎡), 105(156㎡), 106(100㎡)
メッセ2F	5		201A(165㎡), 201B(165㎡), 202(83㎡), 203(72㎡), IC(635㎡)
メッセ3F	5		301A(130㎡), 301B(150㎡), 302(194㎡), 303(194㎡), 304(190㎡)
アパ	5	1	A01(172㎡), A02(172㎡), A03(172㎡), A04(172㎡), A05(172㎡), A06(172㎡)
合計	23	1	(23部屋×5日間+1部屋×1日)×4コマ=464コマ
費用			会議場2210万+アパ774万=2980万

①幕張メッセ国際会議場+メッセ展示場

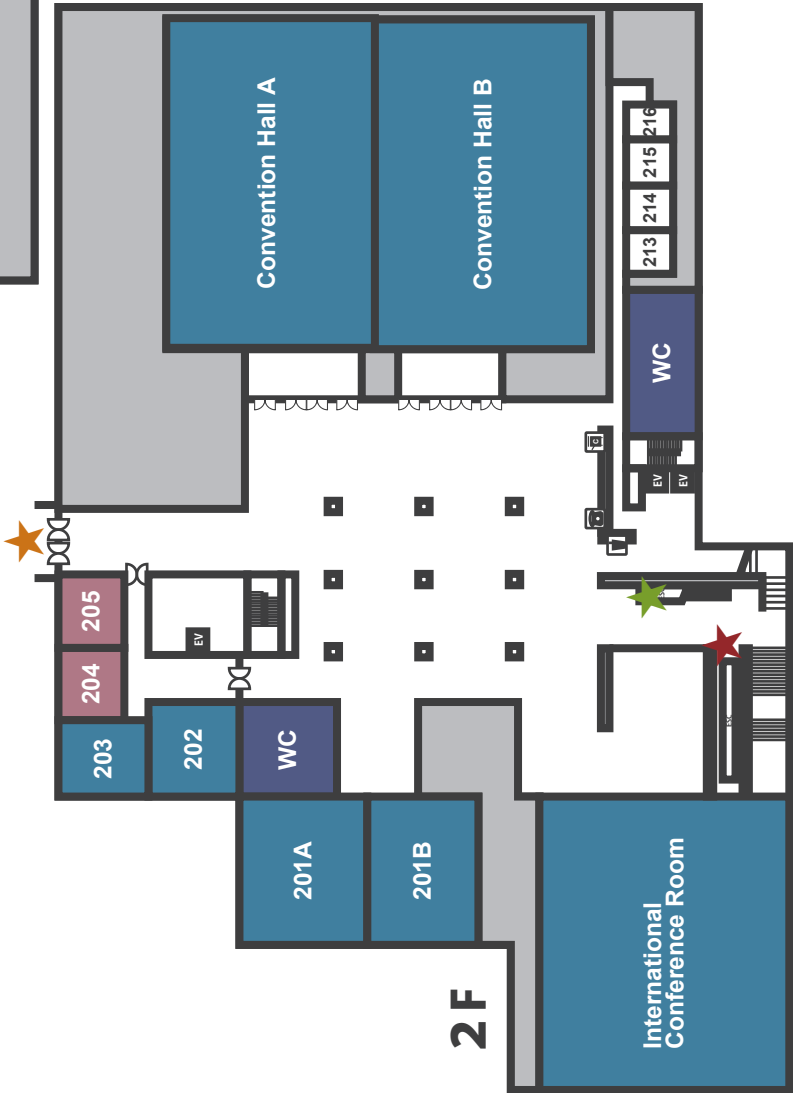
会場	部屋数		部屋内訳
	5日間		
メッセ1F	7		101A(80㎡), 101B(80㎡), 102(139㎡), 103(156㎡), 104(156㎡), 105(156㎡), 106(100㎡)
メッセ2F	7		201A(165㎡), 201B(165㎡), 202(83㎡), 203(72㎡), Con-Hall_A(670㎡), Con-Hall_B(670㎡), IC(635㎡)
メッセ3F	5		301A(130㎡), 301B(150㎡), 302(194㎡), 303(194㎡), 304(190㎡)
合計	19		21部屋×5日間×4コマ=380コマ
費用			会議場2210万+展示場930万=3140万

②幕張メッセ国際会議場+メッセ展示場+アパホテル(5部屋×3日間)

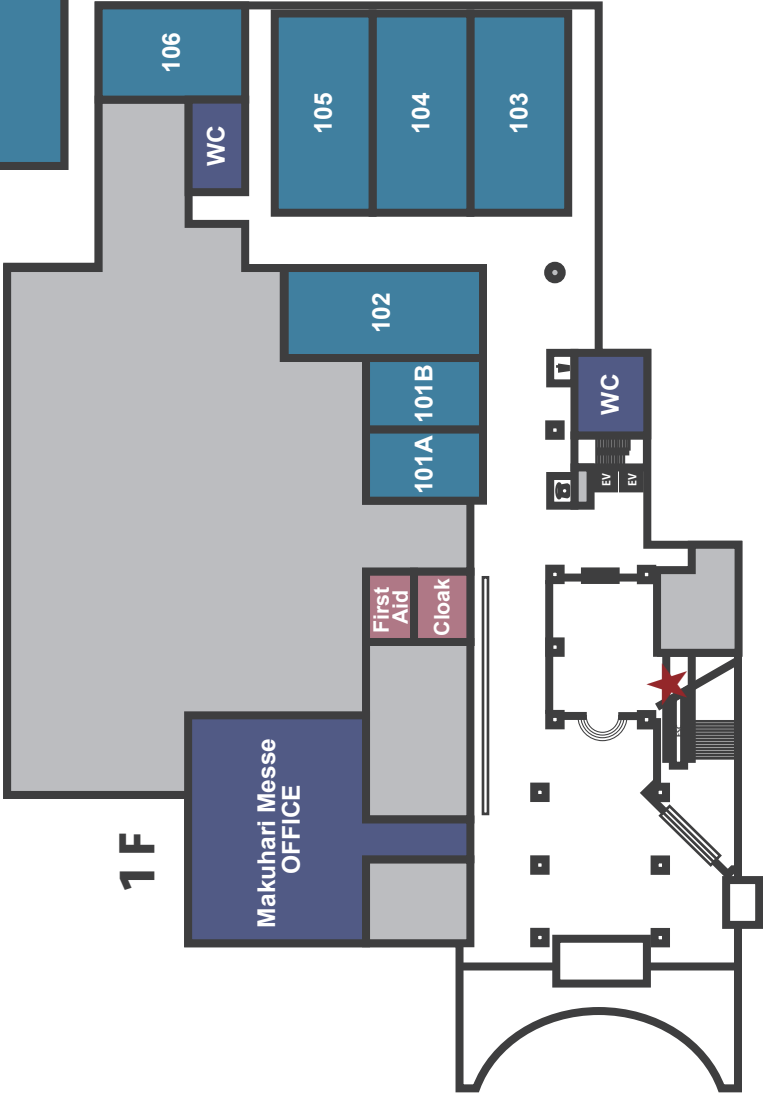
会場	部屋数		部屋内訳
	5日間	3日間	
メッセ1F	7		101A(80㎡), 101B(80㎡), 102(139㎡), 103(156㎡), 104(156㎡), 105(156㎡), 106(100㎡),
メッセ2F	7		201A(165㎡), 201B(165㎡), 202(83㎡), 203(72㎡), Con-Hall_A(670㎡), Con-Hall_B(670㎡), IC(635㎡),
メッセ3F	5		301A(130㎡), 301B(150㎡), 302(194㎡), 303(194㎡), 304(190㎡)
アパ		5	A01(172㎡), A02(172㎡), A03(172㎡), A04(172㎡), A05(172㎡)
合計	19	5	(19会場×5日間+5会場×3日間)×4コマ=440コマ
費用			会議場2210万+展示場930万+アパホテル480万=3620万

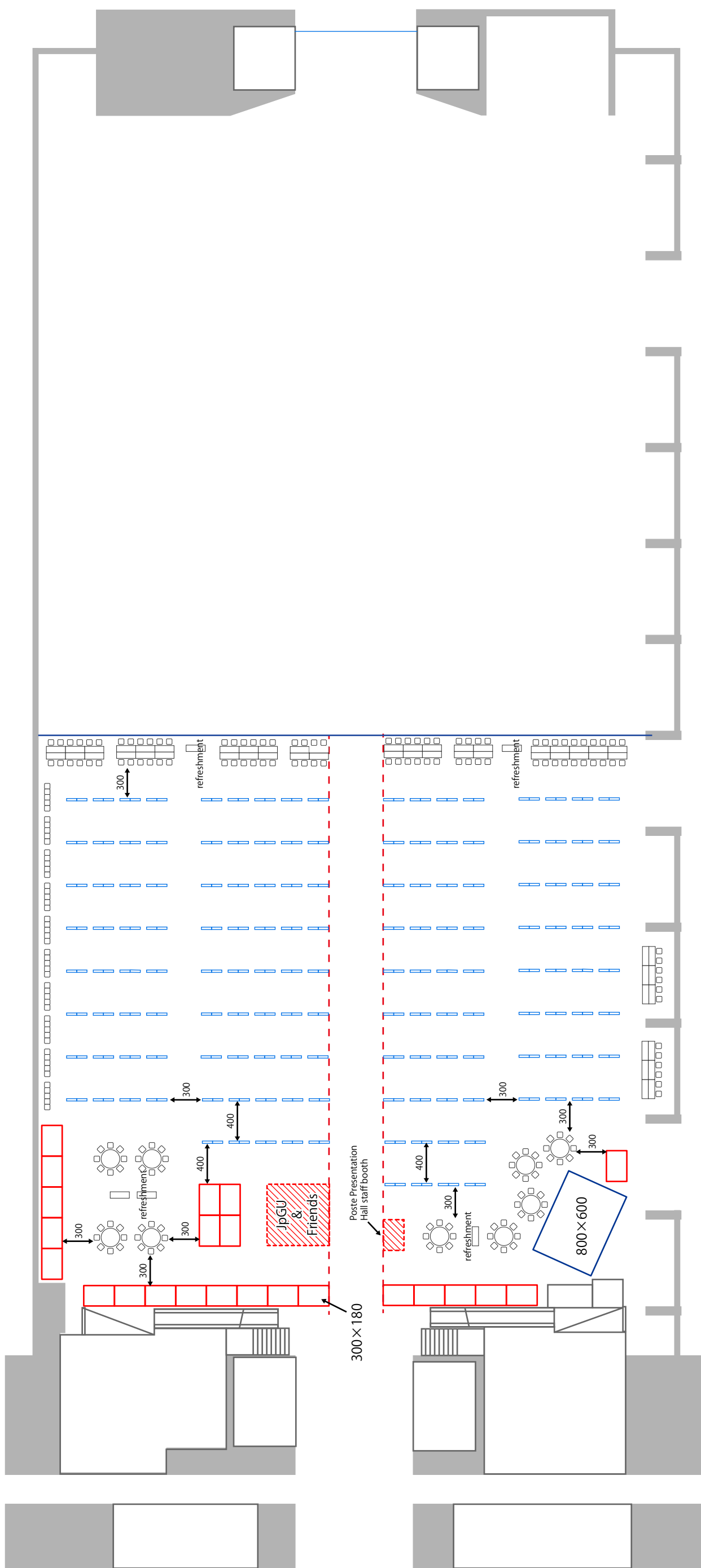
③幕張メッセ国際会議場+メッセ展示場+アパホテル(5部屋×5日間)

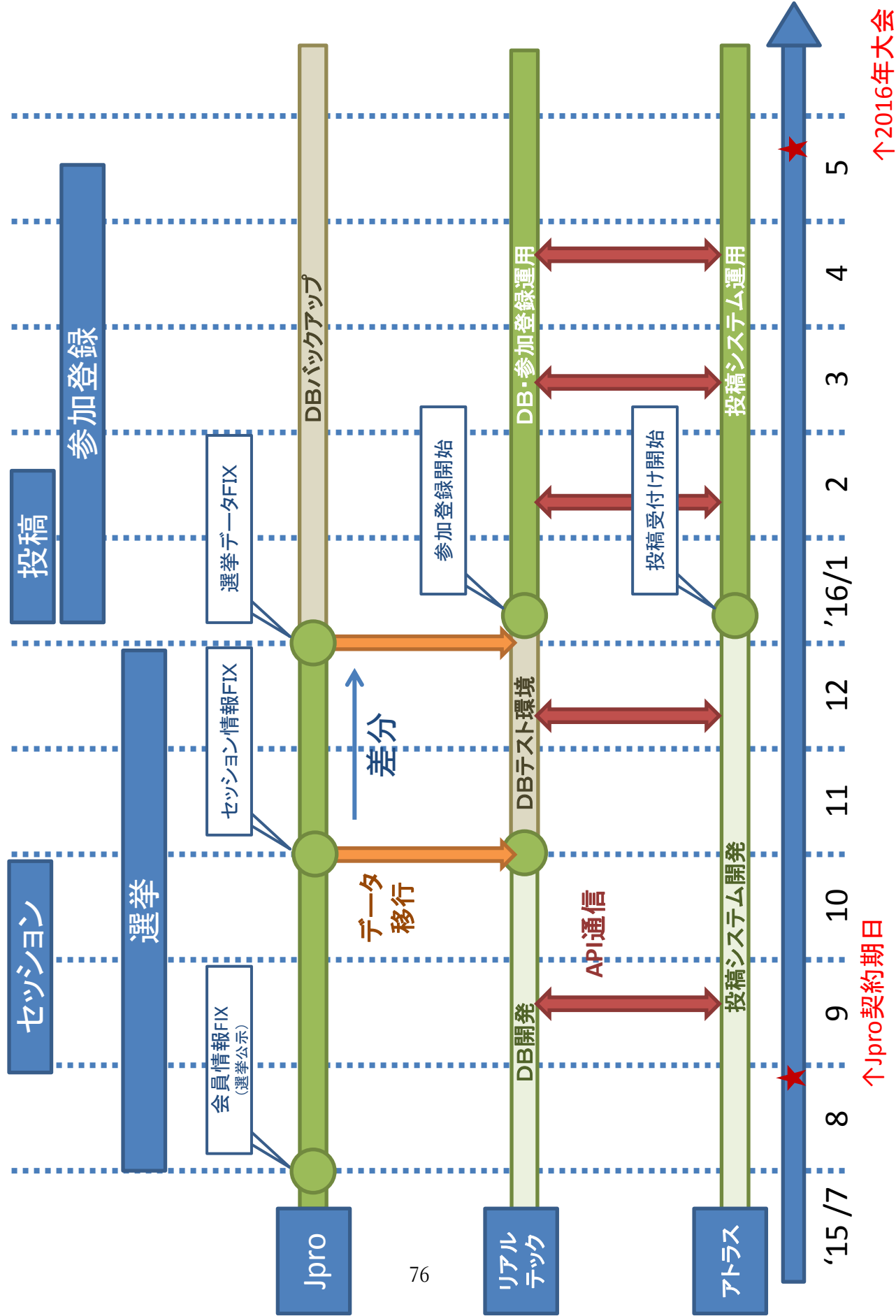
会場	部屋数		部屋内訳
	5日間	3日間	
メッセ1F	7		101A(80㎡), 101B(80㎡), 102(139㎡), 103(156㎡), 104(156㎡), 105(156㎡), 106(100㎡),
メッセ2F	7		201A(165㎡), 201B(165㎡), 202(83㎡), 203(72㎡), Con-Hall_A(670㎡), Con-Hall_B(670㎡), IC(635㎡),
メッセ3F	5		301A(130㎡), 301B(150㎡), 302(194㎡), 303(194㎡), 304(190㎡)
アパ	5		A01(172㎡), A02(172㎡), A03(172㎡), A04(172㎡), A05(172㎡)
合計	24		24会場×5日間×4コマ=480コマ
費用			会議場2210万+展示場930万+アパホテル710万=3850万



1	101A	80m ²
2	101B	80m ²
3	102	139m ²
4	103	156m ²
5	104	156m ²
6	105	156m ²
7	106	100m ²
8	201A	165m ²
9	201B	165m ²
10	202	83m ²
11	203	72m ²
12	Convention Hall A	670m ²
13	Convention Hall B	670m ²
14	IC	635m ²
15	301A	130m ²
16	301B	150m ²
17	302	194m ²
18	303	194m ²
19	304	190m ²
20	A01	172m ²
21	A02	172m ²
22	A03	172m ²
23	A04	172m ²
24	A05	172m ²







	2016	内容
8月	上旬	セッション提案テストサイト検証
	↓	新プログラム委員決定⇒管理サイト入力, 委嘱状送付
		大会HPの作成・編集
	↓	プログラム局始動
9月	1日(火)	2014年連合大会HP立ち上げ
	1日(火)	セッション提案サイト公開
	1日(火)	セッション募集広報活動(各学協会/前年度コンビナー/海外提案者)
	1日(火)	セッション提案募集一斉メール(募集開始のご案内)
	9月理事会	講演実施案報告(理事会, プログラム委員会)
10月	上旬	セッション募集活動(前年度コンビナー等)
	13日(火)	メールニュース10月号(セッション提案募集中)
	15日(木)	セッション提案募集一斉メール(間もなく募集締切のご案内)
	19日(月)	セッション提案最終締切
	20日(火)~30日(水)	プログラム委員によるコメント入力
11月	↓	セッション採択検討(プログラム委員会)
	↓	コンビナーとの調整
	4日(水)	採択予定セッション・コマ数配分確定
	~19日(木)	セクションによる帯案作成
	~26日(月)	コマ割り案作成(プログラム委員長)
12月	上旬	プログラム編成会議⇒コマ割りFIX
	14日(月)~18日(金)	AGU ⇒コマ割りAGUとの最終調整
	21日(月)	2016年大会開催全セッションweb公開 ※コマ割り含む
1月	7日(木)	投稿・参加登録開始
	7日(木)	投稿・参加登録開始のお知らせ一斉メール
	7日(木)	コンビナーに規定、投稿呼びかけ、今後のスケジュールなどメール連絡
	7日(木)	加盟学協会へ大会HP掲載のお願いメール発信
2月	3日(水)	投稿早期締切 24:00
	10日(水)	メールニュース2月号(最終投稿のお知らせ)
		各コンビナーへの今後のプログラム編集スケジュールの通知
		コマ割・プログラム編成日程案連絡(プログラム委員会へ)
	18日(木)	投稿最終締切 12:00
		投稿受付情報連絡一斉メール(2重投稿を投稿者各自でチェック)
		コンビナーへ投稿確認
		投稿者へ二重投稿・支払確認
	18日(木)	論文採択開始(コンビナー)
	22日(月)	投稿調整完了 サイト閉鎖18:00
	24日(水)	論文採択完了
		コンビナーによる投稿内容チェック期限 12:00
		セッション別投稿一覧(確定版)→プログラム委員長へ
3月	2日(水)	プログラム編成終了 ⇒作業確認及び微調整(事務局)
	4日(金)	プログラム編成完了
	7日(月)	投稿者への採択及び日程通知
	10日(木)	プログラムWEB公開(PDF無)
5月	5月10日(火)	早期参加登録 登録締切 17:00
	5月11日(水)	invitationメール送付用参加登録者データ送付(⇒???)
	5月12日(木)	プログラムWEB公開(PDF有)
	5月16日(月)	invitationメール配信
5月22日~26日		連合大会

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 27 年度第 1 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 27 年 5 月 7 日（木）
午後 3 時 30 分から午後 6 時 00 分
2. 開催場所 東京大学理学部 1 号館 7 階 710 号室
（東京都文区本郷 7-3-1）
3. 出席者 理事数 20 名
出席理事 17 名 （定足数 11 名 会議成立）
オブザーバー 10 名
4. 議 長 理事 津田 敏隆
5. 出席役員
理事 津田 敏隆
理事 川幡 穂高
理事 木村 学
理事 中村 正人
理事 ウォリス サイモン
理事 奥村 晃史
理事 北 和之
理事 高橋 幸弘
理事 田中 賢治
理事 西 弘嗣
理事 畠山 正恒
理事 浜野 洋三
理事 原田 尚美
理事 古村 孝志
理事 道林 克禎
理事 村山 泰啓
理事 渡邊 誠一郎
監事 北里 洋
監事 鈴木 善和
監事 松浦 充宏

6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションプレジデント 佐々木 晶 (Skype 出席)
大気水圏科学セクション幹事 川合 義美
地球人間圏セクションプレジデント 氷見山 幸夫
固体地球科学セクションプレジデント 大谷 栄治
地球生命科学セクションプレジデント 小林 憲正
学協会長会議議長 倉本 圭 (Skype 出席)
国際化推進アドバイザー 末広 潔

午後 3 時 00 分、理事の定数に足る出席があったので、会長津田敏隆は議長席に着き、理事会が成立することを宣言した。インターネット電話 skype および TV 会議システムを利用し、多点で同時に会議に参加できるようにし、審議を確実に行うことができることを互いに確認した。

7. 審議事項

第 1 号議案 会員（正会員）入会承認の件（古村孝志理事）

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

第 2 号議案 委員会委員承認の件（古村孝志理事）

環境災害対応委員会委員として小嶋浩嗣会員、岡田雅樹会員を承認した。男女共同参画委員会委員として宮下由香里会員を承認した。

第 3 号議案 代議員選挙規則改正の件(古村孝志理事)

代議員選挙規則の第 5 条の改正を審議した。投票数を「5 名」から「各登録区分の代議員定数の半数（端数切り上げ）」とすることを承認した。

第 4 号議案 役員選考関連規則改正の件(古村孝志理事)

役員候補選出関連規則の改正を審議した。改正案のうち、第 4 条 2 項推薦委員会の決議について、「全委員が出席し」を削除し「全委員の過半数をもって」としたうえで、役員候補者推薦委員会規則および選挙管理委員会規則の改正を承認した。役員候補者選挙規則、役員候補者選挙実施細則を廃止し、理事候補者選挙規則、理事候補者選挙実施細則を新たに設置することを承認した。

第 5 号議案 総会議事および資料承認の件

総会議事および資料を審議した。議事を承認した。

古村理事より事業報告についての説明があった。微細な誤字脱字等を修正のうえでこれを承認した。

北理事より決算についての説明があった。決算を社員総会に提出することを承認した。これらを含め、総会資料を承認した。

第 6 号議案 国内準備タスクフォース(仮称)設置の件

国内準備タスクフォース(仮称)の設置について審議し、これを承認した。General Chair を末廣潔会員とすることを承認した。構成員の任期を 2017 年 JpUG-AGU 合同大会までとし、設立時の構成員は 2016 年プログラム委員会委員長, 2017 年プログラム委員会委員長, 情報システム委員会より 1 名, 広報普及委員会より 1 名, グローバル戦略委員会より 1 名とするが、随時増減を可能とすることを承認した。その他アドバイザーをグローバル戦略委員長、財務委員長、総務委員長、大会運営委員会委員長とする。

8. 報告事項

(1) 古村孝志理事(総務担当)職務報告

総務委員会の活動について報告があった。前回理事会以降に連合が承認した協賛・後援、発行したサポートレターについて報告があった。

(2) 浜野洋三理事(大会運営担当)職務報告

2015 年の大会準備状況について報告があった。大会期間中の主な行事の確認、緊急セッションの準備状況について説明があった。

今後の連合大会についての検討状況についても報告があった。前回理事会でのグローバル戦略委員会からの提案を受け、予稿投稿・プログラム編成システムの改修について検討を始めている。また同様に会場の拡張等についても検討している。今後の投稿増加については、他の関連国際学会同様にポスター採択の割合を増加させる必要があるとの報告があった。

またこれに関連して道林理事より、2015 年連合大会では高校生発表がある日は高校生ポスターとそれ以外のポスターを交互に配置することでポスター会場を活性化させることを図るよう決定したことが報告された。

(3) 川幡理事(ジャーナル担当)職務報告

連合のジャーナル PEPS の出版状況について報告があった。PEPS 創刊から一年が経過した。順調に投稿・出版数を伸ばしており、新しい査読システムの導入や SPEPS の立ち上げ、SNS の活用など、様々な活動をしていることが報告された。投稿の敷居が少し高い感じを与えてしまったかもしれないが、REVIEW (総論) の投稿数 (全体に占める割合) は、当初の目

標以上で、また、PEPS 論文へのアクセス数も一流の国際誌と同等レベルで推移している。

編集長会議には EPS 誌運営委員会より小田啓邦委員長を招き、随時情報交換をしていることが報告された。

(4) 北理事(財務担当)職務報告

寄付金を受け入れる体制を整えるため、検討を開始しているとの報告があった。

(5) 木村学理事（グローバル戦略担当） 職務報告

2017 年連合大会での AGU とのジョイントに向けて、準備を進めているとの報告があった。

(6) その他

村山泰啓理事（情報システム担当）より、「MyJpGU」についての報告があった。業績データを各種形式に整形してダウンロードできるようにしたことなど、利便性を向上させる改修を行っている。会員にとって魅力的なサービスを実現するため今後も検討していく。

畠山正恒理事（教育検討担当）より、教育検討委員会の活動報告があった。現在 AGI との共同企画を検討しており、それについての小委員会設立を準備しているとの報告があった。

平成 27 年 5 月 7 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 9 回理事会

出席理事	津田	敏隆	印
出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	ウォリス	サイモン	印
出席理事	奥村	晃史	印
出席理事	北	和之	印

出席理事	高橋	幸弘	印
出席理事	田中	賢治	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	畠山	正恒	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	原田	尚美	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	道林	克禎	印
出席理事	村山	泰啓	印
出席理事	渡邊	誠一郎	印

別記

2015年7月13日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 会長 御中

共催・協賛・後援承認申請書

申請団体名：公益社団法人日本気象学会

申請者住所：東京都千代田区大手町 1-3-4 気象庁内

申請者名： 理事長 新野 宏

行事名（英訳名）	研究集会「航空機観測による気候・地球システム科学研究の推進」 会議の種類：(☒ 国内会議 ☐ 国際会議)
主催者名	公益社団法人 日本気象学会
開催日	2015年 9月 1日（火）－2日（水）
開催場所、所在地	場所：名古屋大学ES総合館会議室 所在地：愛知県名古屋市
申請の種類	☒ 共催 （企画又は運営に参画し共同で開催する） ☐ 協賛 （趣旨に賛同し、必要に応じて金銭的・人的支援をする） ☐ 後援 （趣旨に賛同し、必要に応じて人的支援をする） ☐ その他 （ ）
金銭・人的援助の有無	☒ 無・有（具体的に： ）
行事趣旨	共同利用可能な研究専用の航空機は、大気科学を軸とする気候・地球惑星システム研究の推進にとって不可欠である。本研究集会は、地球惑星科学の幅広い分野の研究者の参加を得て、地球惑星科学研究の推進のための航空機観測について議論を深めることを目的とする。昨年度、1年間かけて検討を進めてきた観測計画の内容をお互いに紹介・確認するとともに、前半5年間の具体的な観測計画について議論を行う。観測計画の目的と期待される成果を明確化し、またその実現のために必要な研究組織や共同利用のあり方についても確認する。より広く地球惑星科学分野全体の発展に貢献する道筋や他分野の研究者との連携を深めるための今後の進め方についても議論する。
共催、協賛、後援等団体名（申請中も含む）	公益社団法人日本地球惑星科学連合大気水圏科学セクション
希望する共催・協賛・後援の名称	☐ 公益社団法人日本地球惑星科学連合 その他（公益社団法人日本地球惑星科学連合大気水圏科学セクション）

連絡先 (受理通知等送付先)	所在地：〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内 団体名： 公益社団法人 日本気象学会 担当者名： 事務局長 下道 正則 TEL：03-3216-4403 FAX： 03-3216-4401 E-mail： jmetrics@blue.ocn.ne.jp
参加費等	(☒ 無料 ☐ 有料) 参加予定人数 100人 会員 団体 円 個人 円 学生 円 非会員 団体 円 個人 円 学生 円
会議のホームページ	http://

*選択する項目については囲むか、チェックをお入れ下さい。

*会議・行事の趣旨のわかる、開催案内、プログラム、組織委員会名簿、会議全体の予算、開催案内、プログラム等を添付して申し込み下さい。

*原則として、経費や人的負担はいたしかねますが、必要あれば妥当性を判断しますので希望をお知らせください。

*公益社団法人地球惑星科学連合の名称のほか、同セクション名や委員会名での共催・協賛・後援ができますので、ご希望をお知らせ下さい。

研究集会「航空機観測による気候・地球システム科学研究の推進」

開催日：2015 年 9 月 1 日(火)－2 日(水)

開催場所：名古屋大学ES総合館会議室

主催：公益社団法人 日本気象学会

共催：公益社団法人 日本地球惑星科学連合大気水圏科学セクション(申請中)
名古屋大学 地球水循環研究センター

共同利用可能な研究専用の航空機は、大気科学を軸とする気候・地球システム科学研究の推進にとって不可欠である。継続的な航空機搭載観測機器の開発や若手研究者の育成を実現し、その上で世界的な成果をあげていくためには、10 年程度の継続的かつ安定した観測機の利用を保障することが必要である。そして研究者がボトムアップ的に提案した観測研究計画をピアレビューに基づいて吟味し、優れた計画を実現する共同利用研究用航空機の整備が早急に必要である。このような背景から日本気象学会では、日本学術会議の大型研究計画のマスタープラン 2017 に、研究専用の航空機の共同利用体制の確立と、気候・地球システム科学研究の推進する研究計画を提案予定である。

本研究集会は、このために、地球惑星科学の幅広い分野の研究者の参加を得て、地球惑星科学研究の推進のための航空機観測について議論を深めることを目的とする。昨年度、1 年間かけて検討を進めてきた観測計画の内容をお互いに紹介・確認するとともに、前半 5 年間の具体的な観測計画について議論を行う。観測計画の目的と期待される成果を明確化し、またその実現のために必要な研究組織や共同利用のあり方についても確認する。より広く地球惑星科学分野全体の発展に貢献する道筋や他分野の研究者との連携を深めるための今後の進め方についても議論する。

組織委員会名簿

小池真(東京大学)、新野宏(東京大学)、坪木和久(名古屋大学)、中島映至(JAXA)

プログラム(予定)

新野宏 趣旨説明: マスタープラン 2017 へ向けて

(1) 大気科学・気候システム研究

- ・町田敏暢・青木周司: 観測専用航空機による大気中温室効果気体の変動解明
- ・金谷有剛・北和之: 反応性気体の航空機観測による大気化学解明
- ・茂木信宏・竹川暢之: 大気微粒子の変動と放射影響研究
- ・小池真・村上正隆: 航空機観測によるエアロゾル・雲相互作用研究
- ・篠田太郎・山口宗彦: メソ降水系・台風を対象とした航空機観測計画
- ・山田広幸・坪木和久: 航空機による台風の「雲」の観測の必要性
- ・高橋 暢宏: 新しいレーダ技術が開く大気科学研究
- ・阿保真: 航空機搭載用水蒸気ライダーの開発

(2) 気候・地球システム研究

- ・鈴木力英: 航空機を用いた陸上生態系観測の可能性
- ・本多 嘉明: 無人機を利用した地球観測衛星のグランドツルース
- ・豊田 威信: 航空機を用いた海水観測
- ・角皆 潤: 航空機による海洋観測
- ・浦塚 清峰: 航空機からの合成開口レーダによる地形観測
- ・大野 裕一: 人工衛星観測との連携
- ・交渉中: JAXA の航空機観測
- ・岩崎 晃: 航空機・人工衛星観測技術の開発

(3) 研究組織

- ・坪木和久: 名古屋大学の新研究所とその共同利用体制

(4) 総合討論

研究集会終了後には、ダイヤモンドエアサービスの観測機の見学会を実施予定。(名古屋小牧空港)